

令和4年度 第1回龍ヶ崎市社会教育委員会議 会 議 次 第

日時：令和4年10月14日(金)

時間：午前10時～

場所：龍ヶ崎市役所 5階 全員協議会室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員紹介

4 議長選出

5 議長あいさつ

6 議 事

(1) 令和3年度事業報告について

(2) 令和4年度事業計画について

7 そ の 他

8 閉 会

令4年度
第1回龍ヶ崎市社会教育委員会議
会議資料

令和4年10月14日（金）

龍ヶ崎市役所 全員協議会室

目 次

【令和3年度事業報告】

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（主要施策の成果報告）

(1) 文化・生涯学習課

1-1-1-5 (仮称)図書館北竜台分館の整備	1
1-1-1-6 学童保育ルームの充実	2
1-2-2-2 多様な学習機会の提供	3
1-2-3-4 市民大学講座の充実	4
2-4-3-1 教育の日推進事業の充実	5
2-5-1-2 各種セミナーの開催・相談体制の充実	6
2-5-2-2 子どもの読書活動の推進	7
2-5-4-1 子どもの交流・活動拠点の充実	8
2-5-4-2 子どもの地域活動への参加促進	9
2-6-1-1 人権啓発活動の充実	10
2-6-2-1 市民遺産の認定	11
2-6-2-2 歴史的資源などの活用	12

(2) スポーツ都市推進課

1-2-3-3 トップアスリートの育成	13
2-6-3-1 流通経済大学運動部との連携	14
2-6-3-2 マラソン大会開催	15
4-12-1-4 旧北文間小学校改修工事	16

2 龍ヶ崎市教育委員会の事務に関する点検評価報告書

文化・生涯学習課

1-(1)-12 郷土学習の推進	17
1-(3)-24 教育の日推進事業の充実	18
2-(1)-41 各種セミナーの開催	19
2-(1)-42 相談体制の充実	20
2-(1)-43 基本的な生活習慣の定着	21
2-(3)-49 学童保育ルームの充実	22
2-(3)-50 アフタースクール・サタデースクールの充実	23
2-(3)-51 青少年センターの充実	24
2-(4)-52 子どもの交流・活動拠点の充実	25
2-(4)-53 子ども会活動の活性化	26
2-(4)-54 子どもの地域活動への参加促進	27
2-(4)-55 新成人の交流促進	28
3-(1)-56 中央図書館の利便性の向上	29

3-(1)-57 読書・学習環境の充実	30
3-(1)-58 子どもの読書活動の推進	31
3-(1)-59 流通経済大学の図書館との連携強化	32
3-(2)-60 人材バンクの充実	33
3-(2)-62 生涯学習講座等の充実	34
3-(2)-64 出前講座の充実	35
3-(3)-65 人権啓発活動の充実	36
4-(1)-68 地域文化活動の育成及び支援	37
4-(1)-69 文化会館の利便性の向上	38
4-(1)-70 鑑賞・招聘型文化活動の充実	39
4-(2)-71 文化財の指定及び保護	40
4-(2)-72 市民遺産の認定	41
4-(2)-73 歴史資源などの活用	42
4-(3)-74 歴史民俗資料館の利活用の向上	43
4-(3)-75 体験学習の充実	44
4-(3)-76 郷土史の普及促進	45

【令和4年度事業計画】

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（主要施策）

（1）文化・生涯学習課

1-1-1-4 学童保育ルームの充実	46
1-2-2-2 多様な学習機会の提供	46
1-2-3-3 市民大学講座の充実	47
2-4-3-1 教育の日推進事業の充実	47
2-5-1-2 各種セミナーの開催・相談体制の充実	48
2-5-2-2 子どもの読書活動の推進	48
2-5-4-1 子どもの交流・活動拠点の充実	49
2-5-4-2 子どもの地域活動への参加促進	49
2-6-1-1 人権啓発活動の充実	50
2-6-2-1 市民遺産の認定	50
2-6-2-2 歴史的資源などの活用	51

（2）スポーツ都市推進課

1-2-3-1 大学等と連携したスポーツイベントの開催	52
1-2-3-2 トップアスリートの育成	52
2-6-3-1 流通経済大学運動部との連携	53
2-6-3-2 スポーツサロン北文間館の運営	53
2-6-3-3 マラソン大会の開催	54

【令和 3 年度事業報告】

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン (主要施策の成果報告)

文化・生涯学習課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
目 標	1	子育て環境日本一【重点目標】					
施 策	1	「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現			SDGsとの関連性		
事業名	(仮称)図書館北竜台分館の整備			4 質の高い教育を みんなに 8 働きがいも 経済成長も			
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	市内商業施設に、図書貸出窓口をはじめ、キッズスペースやテレワークスペース等を兼ね備えたサテライト施設を整備します。						
関連計画等での位置付け							
活動実績 及び成果	市内ショッピングモール内に、テレワークスペース、キッズスペース、本の閲覧スペースを有し、図書貸出等の窓口業務を行う図書館の分館(図書館北竜台分館:愛称「たつのご図書館」)を新設し、9月25日(土)にオープンしました。 ●オープンまでの準備 1 指定管理者の選定及び協定の締結 - 指定管理者選定委員会で候補者を選出した後、令和3年度第2回市議会定例会において指定に関する議案可決 - 龍ヶ崎市立図書館の設置及び管理に関する基本協定を締結 締結日:6月28日、協定期間:令和3年7月1日から令和7年3月31日 2 整備工事に関する協議 3月に締結した整備等に関する「協定書」に基づき、隣接する市民窓口ステーションと分館の2施設を一元化的に整備 - ショッピングモール施設管理者、設計会社、企画課、市民窓口ステーション、都市施設課、当課の間で必要に応じて内装・設備等の打ち合わせを行い、7月16日に工事内容を確認 3 備品等の購入及びレイアウト・設置 - 設計と並行して、図書館家具等のレイアウトを決定し、書架、テーブル、椅子、窓口用品などサービスや業務に必要な備品を購入 4 配架図書の選定及び設置 新刊本の発行後、速やかに施設で利用提供できるよう、新たな発注ツールを導入して図書を選定・購入(図書購入は指定管理者の業務として行い、令和4年2月末現在 1,500冊程度を所蔵) 5 図書館システム等稼働準備 - 専用のインターネット回線を導入し、窓口業務用及び利用者検索用端末を既存の図書館システムを利用して運用 7 施設の愛称公募及び決定 - 募集期間 4月12日(月)～5月20日 - 募集方法 郵送・FAX、メール、インターネット応募フォーム、市内小学校4年生から中学3年生の児童生徒に応募用紙を配付、応募用紙・応募箱を市内3カ所に設置 - 愛称決定 270点の応募作品の中から、3段階の審査を経て選定 8 オープンの前後に市広報紙・市HP・分館内覧会・プレスリリースにより新規オープンを周知 ●オープニングセレモニー - オープン日に式典・テープカット・愛称発表(愛称命名者へ記念品等を贈呈)、先着100名に記念ノベルティを進呈 - 予定していたオープニングイベント(アルバの演奏会)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、11月28日(日)に延長して実施						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		0	0	0	0	54,186,409
	事業費		0	0	0	0	51,884,978
	人件費		0	0	0	0	2,301,431
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	0	0	0	713
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	51,884,978
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		0	0	0	0	2,301,431	
事業 評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		新型コロナウイルス感染症の拡大が繰り返し懸念され続けるなか、図書館機能を分散すること、施設内のテレワークスペースは重要な役割を果たしていると考えます。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		目標としていた機能を備えた施設を開館することができた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオープン日や記念イベント等を延期する事態となったが、延期になったオープニングイベントについては感染状況を見計らって実施した。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し		施設の管理運営については、指定管理者と取り交わした協定に沿って行う。		
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止					
		今後は、イベントを開催するなど、商業施設内にあるという立地条件を活かしながら施設運営を継続するとともに、利用案内を強化する。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略		1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～						
目 標		1	子育て環境日本一【重点目標】						
施 策		1	「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現		SDGsとの関連性				
事業名		学童保育ルームの充実		4質の高い教育をみんなに 8働きがいも経済成長も					
担当課		文化・生涯学習課							
事業の概要・目的		保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確保し、学童保育や学習支援などの充実を図ります。							
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-1							
活動実績及び成果		1業務委託による、安定的な保育ルームの管理運営が図れた。 (1) 入所児童数や児童の特性に応じた支援員等の配置を進めた。 ・夏休み期間の児童数の増加や1日保育による支援員の不足がないようにし、児童を安全に支援することができた。 ・障害児の受入れに対しては加配支援員を配置することにより、より児童に沿った支援を行うことができた。 (2) 施設に必要な備品等の購入や修繕を必要に応じて行い、児童の過ごしやすい環境整備を進めた。 ・保育ルームの開所時間前には、支援員による施設の点検及び感染症対策のための消毒を適切に行った。 (3) 新型コロナウイルス感染症の影響により、支援員に対しての研修については集めて行うことが困難だったため、委託業者に対して、ズーム等の活用等工夫して研修を行うよう指示した。 (4) 委託業者と毎月の連絡調整会議や必要に応じた打合せを行い、適宜運営について指導することができた。 ・毎月第3水曜日に、委託業者のエリアマネージャー及び統括責任者、学童保育担当職員により連絡調整会議を行いその都度課題解決を行った。 ・また、エリアマネージャーや統括責任者を各保育ルームを定期的に巡回させ、情報提供及び共有に努めさせた。 ・毎月月初めには統括責任者から各保育ルームの提出物を受領し、その際に、市役所からの配布物も行い、必要に応じて打合せを行い、適宜指導することができた。 ・統括責任者2名を置き、11保育ルームを2つのブロックに分け、事務室を別々(松葉と城ノ内)としてたが、城ノ内の1か所に2人勤務させることにより、市からの情報が円滑に伝わり早急な事務対応が行えるようになった。 (5) 新型コロナウイルス感染拡大により小学校が9月12日まで臨時休校・リモート学習となったことから、この間低学年の1年生から3年生のみ預かる等利用制限し、臨時的に一日保育を開設した。また、児童に対し、手洗い・手指消毒・ソーシャルディスタンス・黙食等の感染対策を適宜指導させた。							
コスト情報		費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)		158,509,106	164,186,667	167,405,051	197,790,001	199,206,845	
		事業費		142,547,573	148,762,592	151,982,803	187,549,497	188,927,122	
		人件費		15,961,533	15,424,075	15,422,248	10,240,504	10,279,723	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	2,047	2,130	2,181	2,595	2,621
		財源内訳(円)							
		国 支出金		35,498,000	34,857,000	38,831,000	51,560,000	51,181,250	
		県 支出金		31,654,000	32,950,000	33,988,000	50,200,000	39,508,000	
		起 債		0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)		45,082,550	47,361,650	48,750,150	40,763,600	44,930,800	
一般財源		46,274,556	49,018,017	45,835,901	55,266,401	63,586,795			
事業評価	評価項目	評価基準		チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)		■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		女性の就業割合の高まりや核家族化の進行等に伴い、放課後等における児童の居場所の確保と安定的な保育サービスの提供が必要である。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか		■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		児童数の増加に対応するため、特に長期休業中などは、学校の特別教室を借用し、適正に運営することが出来ている。保育業務の民間委託により、さらに保育環境の充実を図っていく。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか		■ 現行どおり □ 見直し		保育業務の運営を民間事業者に委託することにより、支援員の安定的な確保と民間のノウハウを活かした運営を行っている。今後も支援員の確保と施設の運営等において安定性が期待できる。			
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止							
		令和2年度より学童保育の運営を民間事業者に業務委託したことにより、長期休業中の児童数の増加に対応するための支援員の確保を十分に行うことができ、安定的な運営ができた。今後も、業務委託を継続し、年間を通しての支援員の確保及び児童の健全育成・保護者の就労を支援するため、支援員の資質向上のための研修等を定期的に行い、さらに保育環境の充実を図る。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～						
	目 標	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	施 策	2	特色ある教育環境の創造	SDGsとの関連性 				
	事業名	多様な学習機会の提供						
担当課	文化・生涯学習課／指導課							
事業の概要・目的		アフタースクールやサタデースクール、サマースクールなど、多様な学習機会を提供します。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-2						
活動実績及び成果		【アフタースクール】 異学年の児童が交流する活動であること、学校関係職員以外が出入りをする、活動場所として校舎内を使用していることから、総合的に見て感染リスクが高い活動であると判断し開催を中止した。感染拡大を防止しながら、教育活動を実施していく学校運営の姿勢と歩調を合わせた。 【サタデースクール】 活動場所がアフタースクールとは異なり、保育ルームの空き教室での実施が可能なことから、感染症の状況により、実施可能という見立てで準備を実施した。 ・令和3年6月 9月の事業スタートを想定して、時間短縮(午前・午後の2部開催)や回数削減(月に1回、全6回)を計画。利用者及び事務処理の負担軽減を目指し、茨城電子申請・届出サービスを導入。募集についての準備。 ・令和3年9月 臨時休校となり、本年度の事業中止を決定。予算を減額(12月補正) ・令和4年3月 次年度に向けて受託業者と情報交換をし、他市町村の実施状況や内容を把握し、次年度の実施計画を作成(令和4年度は単費で実施) 【サマースクール】 例年は、学習補助(理科自由研究、統計グラフコンクール等)、自習場所の提供、学びの広場など、各学校の実態に応じて時間や場所を設定し実施しているが、今年度も実施を中止した。						
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)	16,516,930	14,274,578	13,542,617	305,687	690,429	
		事業費	10,254,510	9,593,640	9,995,500	0	0	
		人件費	6,262,420	4,680,938	3,547,117	305,687	690,429	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	213	185	176	4	9
		財源内訳(円)						
		国 支出金	0	0	0	0	0	
		県 支出金	3,024,000	3,048,000	2,888,000	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
一般財源	13,492,930	11,226,578	10,654,617	305,687	690,429			
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	本事業は、受託業者が提供する体験活動に触れることで、児童に様々な分野への興味・関心を喚起することが期待できる。サマースクールは、長期休業期間の学習習慣の定着に向けて必要である。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□ 有効である ■ 概ね有効である □ 有効でない	子どもの居場所としての機能や学習の補充として充てる場合では、内容の定着が期待できる。異学年児童や大人との交流活動を通して、豊かな人間性や社会性を育むことができる事業である。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し	本事業は、民間事業者への業務委託により実施している。体験プログラムの企画や講師を含めた人材の確保等について、ノウハウが蓄積されており、効率的な実施が可能である。				
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 新型コロナウイルスの影響により事業を中止したが、必要性や有効性が高い事業であり、今後も多様な学習機会の提供を継続していく。感染防止対策を講じながらの事業実施となっていくが、感染症の状況にとらわれずに開催することを前提とした計画(運営方法や活動内容)を受託業者と共同で模索していく。サマースクールは、感染症に伴う学校の運営方針に照らし合わせ、実施を判断していく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
	目 標	2	住んでみたいと感じるまちづくり				
	施 策	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進	SDGsとの関連性			
	事業名	市民大学講座の充実		4 質の高い教育をみんなに 17 パートナリシップで目標を達成しよう			
担当課	企画課／文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	大学等との連携により、市民ニーズに応える専門性の高い講座を実施します。						
関連計画等での位置付け							
活動実績及び成果	新型コロナウイルス拡大防止の観点から実施することができなかった。 (1) 東洋大学生涯学習プログラムによる講座の開催 9月以降に講師派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講座開催には至らなかった。 (2) 流通経済大学と連携した市民大学講座の開催 ①大学側との協議調整のうえ、大学の学園祭に合わせて、実施できるよう当初調整したが、実施には至らなかった。 ②新たな公開方法の検討として、WEB授業への参加等について協議した。						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		534,597	867,555	308,445	76,422	76,714
	事業費		0	23,451	0	0	0
	人件費		534,597	844,104	308,445	76,422	76,714
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	7	11	4	1
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		534,597	867,555	308,445	76,422	76,714	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない		大学のあるまちのメリットを活かした、高度な内容の学習機会を市民に提供する、市民ニーズに沿った事業である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない		大学と連携した魅力ある講座を毎年開催しており、有効な事業であると考えますが、更に多くの市民の方に参加いただけるよう魅力あるテーマや参加しやすい開催日時や手法について、大学と協議しながら、引き続き検討していく。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直し		参加費について、テキスト代等が発生する場合には、実費相当分を徴収するようにしている。講座の開催にあたっては、大学と共働で効率的に事務を行っている。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止						
	WEB会議形式を活用した講座の開催や講座動画の配信など実施に向けた新たな手法の検討も大学側と協議し進めていきたい。 今後も大学のあるまちのメリットを活かし魅力ある講座の開講について、継続し検討していく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～							
	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり							
	3	魅力があり、信頼される学校づくりの推進				SDGsとの関連性  			
	事業名	教育の日推進事業の充実							
担当課	文化・生涯学習課／指導課								
事業の概要・目的		11月の龍ヶ崎教育月間、11月5日の龍ヶ崎教育の日を中心に龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することで、市民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもを育成します。							
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.1-3-3、2-1-4							
活動実績及び成果		1 実行委員会の開催 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事務局において資料を作成し、委員に対して郵送することで了解を得た。 (1) 令和3年6月 事業計画(案)、予算案について (2) 令和4年3月 事業実績、決算について 2 作品募集 10月を募集期間とし、市内小中学生とその保護者、市民から総計1,460点の応募があった。作品の中から抽選で100名にまいりゅうオリジナルミニトートバッグを贈呈し、市公式HPに掲載した。 (1)私の漢字一文字！：家族のルール、支えになった恩師のひとこと、友人との大切な思い出、今後の目標などを漢字一文字で紹介 (2)おうちで作るおすすめメニュー：「龍ヶ崎にちなんだメニュー」「スイーツメニュー」「パパ、ママの時短メニュー」 (3)龍ヶ崎の未来予想図！：「龍ヶ崎のここがこうなるともっと快適に生活できる」や「理想の龍ヶ崎」 3 広報活動 (1)市広報紙「りゅうほー」への掲載：コロナ禍での児童生徒の学校生活の様子の紹介及び作品募集のお知らせ (2)市公式HPへの掲載：作品募集のお知らせ及び募集用紙の掲載 (3)作品募集用紙の作成：教育機関への配付 (4)横断幕、のぼり旗の掲示：PR用横断幕を市役所庁舎壁面、及びJR常磐線龍ヶ崎駅に掲示 ：のぼり旗を市役所正面玄関前、各小中学校、幼稚園、保育園、認定こども園、公共施設等に設置。 (5)市公式HPへの作品掲載：期間を限定し、入選作品を掲載							
コスト情報		費目／年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)		4,619,227	4,308,542	7,011,829	4,912,374	4,901,164	
		事業費		266,082	241,497	226,040	174,230	144,874	
		人件費		4,353,145	4,067,045	6,785,789	4,738,144	4,756,290	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	60	56	91	64	64
		財源内訳(円)							
		国 支出金		0	0	0	0	0	
		県 支出金		0	0	0	0	0	
		起 債		0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0	
一般財源		4,619,227	4,308,542	7,011,829	4,912,374	4,901,164			
事業評価	評価項目	評価基準		チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)		■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		市民の教育に対する興味・関心を高め、理解を深めていくためには、学校・地域・家庭が連携して、継続して教育の日推進事業を展開していく必要がある。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか		■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		事業の実施により児童生徒に対して、地域のよさや特性、課題について考える機会とすることで、社会参画力を育むことができ、有効な手立てとなった。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか		■ 現行どおり □ 見直し		コロナ禍のため今年度も作品募集を主要事業として実施したが、テーマや選考手順を効率化したことで、職員の負担を軽減でき、市公式HPに作品を掲載するなど成果が出ている。			
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止							
		11月5日の「龍ヶ崎教育の日」、11月の「教育月間」を継続し、龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもたちを育成していくために、学校・地域・家庭が連携した事業を今後も推進していく。 感染症の感染状況を鑑みながら実施していくことはもとより、一堂に会することなく、学校・地域・家庭が連携して教育に関する事業を展開できる計画を検討していく。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～							
	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり							
	1	家庭の教育力の向上			SDGsとの関連性				
	事業名	各種セミナーの開催・相談体制の充実			8働きがいも経済成長も 11住み続けられるまちづくりを				
担当課		文化・生涯学習課							
事業の概要・目的		子どもを持つ親たちの学習や交流の場の提供として、子育てふれあいセミナー事業を実施し、子育てへの不安や悩みを解消し、家庭教育の重要性の認識を図ります。							
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-1							
活動実績及び成果		【活動実績】 1 子育てふれあいセミナーの実施 市内小学校低学年(第1・2学年)の保護者を対象に、「子育てふれあいセミナー」(家庭教育学級)を開講し、講演や研修会を実施した。 ・全体研修会(7/8)…延べ69名 講師 親業シニア訓練インストラクター 富澤 優江 先生 ・座談会(9/9)…【中止】 講師 親業シニア訓練インストラクター 富澤 優江 先生 ・食に関する研修会(10/27～12/3の期間内に9回)…延べ40名 講師 中井 晴香 栄養教諭 2 子育てふれあいセミナー通信の作成及び配布 子育てふれあいセミナーの実施についてのお知らせや家庭教育や子育てに支援に関する情報提供の一環として、小学校1・2年生の子をもつ保護者に情報提供を行った。 3 就学時健康診断での家庭教育についての講話 就学時健康診断時に、龍ヶ崎市家庭教育指導員、社会教育主事が保護者に対し、茨城県教育委員会就学前教育・家庭教育推進室による資料「子育てアドバイスブック クローバー「ダイジェスト版」」を活用して、家庭教育についての講話を実施した。 【感染対策】 ・全体研修会…附属棟大会議室を使用の上、2部開催。時間の短縮、座席間距離の確保を実施した。 ・食に関する研修会…小学校単位でコミュニティセンターにて、時間の短縮、座席間距離の確保を実施した。 【成果】 参加者アンケートからは、高い満足度が得られた。							
コスト情報		費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)		2,552,279	2,729,312	2,853,563	305,687	338,183	
		事業費		2,017,682	2,038,682	2,082,451	0	31,326	
		人件費		534,597	690,630	771,112	305,687	306,857	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	33	35	37	4	4
		財源内訳(円)							
		国 支出金		0	0	0	0	0	
		県 支出金		0	0	0	0	0	
		起 債		0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0	
一般財源		2,552,279	2,729,312	2,853,563	305,687	338,183			
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		小学校低学年の保護者が、抱えている学校生活や子育てへの不安や悩みを解消するための講演を実施できた。保護者の家庭教育の重要性についての理解を深め、家庭教育の推進を図ることができる。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		全体研修会では、兄弟のリピーターであるという保護者がいたり、アンケートから高い満足度が得られたりと有効性が感じられた。食に関する研修会でも、例年には見られないお父さんや保健センター職員の参加が見られた。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□ 現行どおり ■ 見直し		担当課で企画、運営を実施したことで、学校側の業務を軽減することができた。課題は、「食に関する研修会」の開催が感染症対策のため、9回と多かったことが挙げられる。適切な規模や時期での開催を検討することが必要である。				
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止 就学時健診時の講話は、保護者への学習機会として継続する。子育てふれあいセミナーは、ニーズ調査の結果に基づき、研修内容を策定していく。感染対策との両立を可能にするオンラインや動画配信の事業計画を検討する。周知活動として、市公式HPへの子育てふれあいセミナーの活動予定や実施報告の掲載、県生涯学習課が管理・発行する家庭教育についてのサイトや資料を掲載し充実を図っていく。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～							
	目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり						
	施 策	2	幼児教育の充実			SDGsとの関連性 			
	事業名	子どもの読書活動の推進							
担当課	文化・生涯学習課								
事業の概要・目的		子ども読書活動推進計画に基づき、幼児期における読み聞かせや読書の重要性の周知を図り、子どもが自主的に読書に取り組む環境整備を進めます。							
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-3							
活動実績及び成果		「子どもの読書についてのアンケート」の実施 1 主旨・内容 平成29年度にスタートした第3次龍ヶ崎市子ども読書活動推進計画の改定時期を迎え、次期「龍ヶ崎市子ども読書活動推進計画（第四次）」策定の基礎資料とするため実施した。 2 対象 ◆児童・生徒 ・市内小学校2年生及び5年生全員/市内中学校2年生全員（県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校含む） ・市内県立高等学校2年生全員 ◇保護者 ・市内幼稚園全4園（5歳児クラスの保護者）・市内保育園（所）全7園（2歳児クラス及び5歳児クラスの保護者）市内認定こども園全6園 2歳児クラス及び5歳児クラスの保護者・つばみ園未就学児の保護者（※） ・保健センターにおける乳幼児1歳6か月児健診受診者保護者（※）（※市内幼稚園、保育園（所）に通園（所）している園児等は除く） 3 実施期間 令和3年11月26日（金）から12月10日（金）まで 4 実施方法 ◆児童・生徒 （1）市内小学校2年生・5年生/市内中学校2年生・「紙媒体」もしくは「いばらき電子申請・届出サービス」を使用（2）県立竜ヶ崎第一高附属中学校2年生/市内県立高等学校2年生・「いばらき電子申請・届出サービス」を使用 ◇保護者「いばらき電子申請・届出サービス」を使用 5 成果 前回調査時（H28.7）との経年変化を把握し、今後策定する計画において踏まえるべきポイントが確認できた。							
コスト情報		費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額（円）		1,870,064	667,494	570,979	45,174,425	1,059,287	
		事業費		1,717,322	53,600	31,200	42,881,775	62,000	
		人件費		152,742	613,894	539,779	2,292,650	997,287	
		市民1人あたりの費用（R03.10/1常住人口）		76,014	24	9	7	593	14
		財源内訳（円）							
		国 支出金		0	0	0	42,706,342	0	
		県 支出金		0	0	0	0	0	
		起 債		0	0	0	0	0	
		その他（受益者負担など）		0	0	0	0	0	
		一般財源		1,870,064	667,494	570,979	2,468,083	1,059,287	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		子どもの読書活動は、法律により計画を策定して推進に努めるよう規定されているもので、当市の実情に応じて読書環境の充実に取り組んでいる。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		子ども読書活動推進計画（第3次）で施策を担当している課や学校、龍ヶ崎市立図書館（指定管理者）が連携することで効率的に実施され、成果を上げている。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□ 現行どおり ■ 見直し		改定する計画については、これまでの取組や課題を踏まえ、単独での策定ではなく、教育プランにおいて子どもの読書活動推進に関する今後の基本的な方向性と方策を定め、新たな「子ども読書活動推進計画」に位置づけ取組をすすめたい。				
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止 第3次子ども読書活動推進計画に基づく実施計画の管理や、毎年新たな事業の企画運営など、子どもの読書環境づくりに取り組み、コロナ禍を迎えるまでは、指標値の推移からも順調に成果を上げ、目標は達成できたものと認識している。ついで、これまで子ども読書活動推進計画に基づき、毎年実施計画を定め進捗管理を行ってきたが、一定の成果が見られていることから、第3次計画終了後は教育プランの同事業項目内に指標を増やし、その指標に関連する各課が毎年進捗管理を行うことで第4次計画に代えたい。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～						
	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり						
	4	子どもの交流と活動の促進	SDGsとの関連性 					
	事業名	子どもの交流・活動拠点の充実						
担当課	文化・生涯学習課							
事業の概要・目的		たつのこ山管理棟の施設を利用して、サポーターやボランティアの見守りにより、子どもたちの自由な発想を育む空間を提供します。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-1						
活動実績及び成果		たつのこやま管理棟内における「子どもの居場所づくり事業」施設来館者数:894人 (1) NPO法人ティ・ペア(土・日曜日 10:00～16:00) (2) 龍ヶ崎市女性会(木曜日 14:00～16:30) (3) たつのこ山囲碁クラブ(月曜日 13:00～16:30) 感染症拡大防止のため4月から6月まで公共施設を閉館していたため、7月から制限をして開館した。これまではだれでも自由に入館していたが、市内の小中学校の児童生徒に限定し、マスクや消毒・換気、人数を制限し、来館時の名簿への記入などを徹底して実施した。なお、まん延防止等重点措置により、1月27日より、当面の間閉館とした。子どもたちにはNPOのサポーターや地域のボランティアによる見守りにより、卓球やゲーム、工作活動など、安心して過ごせる場所を提供することが出来た。						
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)	2,972,219	844,104	2,656,710	2,318,083	2,234,673	
		事業費	2,284,880	0	1,962,709	1,401,023	1,314,101	
		人件費	687,339	844,104	694,001	917,060	920,572	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	38	11	35	30	29
		財源内訳(円)						
		国 支出金	0	0	0	0	0	
		県 支出金	0	0	0	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
		一般財源	2,972,219	844,104	2,656,710	2,318,083	2,234,673	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	感染症の拡大防止により利用者を限定したが、子ども達の自由な発想で利用できる場や安心して遊べる場を提供することが出来る。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	入場制限をしているため利用者数は少なめだが、リピーターが多いことから活動内容の満足度は高いと思われる。市内の他の地域においても巡回活動することで、事業の拡大が図られると思われる。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直し	NPO法人への業務委託は最小限の人数で子どもたちへの遊びの指導や、物づくり活動の指導をし、またボランティアを活用しての見守りも実施されている。				
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止						
		たつのこ山管理棟での居場所づくり事業については、感染症の感染拡大防止対策を講じて活動の制限はあるものの、利用する子どもたちが安心して活動できる居場所を提供していきたい。また、「子どもの広場移動教室」として居場所づくり事業で実施している物づくり活動について、市内の他の地域も巡回して実施していきたい。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～					
	目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
		4	子どもの交流と活動の促進				
	事業名	子どもの地域活動への参加促進					
担当課	文化・生涯学習課／指導課						
事業の概要・目的	子どもの地域活動への参加を促し、青少年の健全育成を図ります。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-3						
活動実績及び成果	1 市内一斉清掃 例年、青少年育成龍ヶ崎市民会議から小中学校を通して、児童・生徒に市内一斉清掃(6月・11月・3月)への参加を呼び掛け、参加した児童・生徒には学校を通してまちづくりポイントシールを配布している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、学校を通しての参加の呼びかけを取りやめた。 2 あいさつ・声かけ運動キャンペーン (1) 青少年育成龍ヶ崎市民会議、青少年相談員等とともに「あいさつ・声かけ運動」を実施。市内各小中学校において児童の登校時にのぼり旗を掲げ、子どもたちにあいさつ、声かけを実施した。 また、市内のショッピングセンター2カ所(城南ショッピングセンター、サンプラスクエア)においてキャンペーングッズを配布し、家庭や学校または地域において、大人と子どものコミュニケーションを円滑なものとし、青少年の非行防止と健全育成を図った。 7月5日(月) 市内小学校：午前7時40分～ 市内ショッピングセンター：中止 11月1日(月) 市内小学校：午前7時40分～ 市内ショッピングセンター：午後4時30分～ (2) 市民会議の各支部及び市内小中学校において、「あいさつ・声かけ運動」ののぼり旗を設置し、地域全体で子どもたちを安全に見守り、青少年の健全育成を図った。						
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	総額(円)	1,132,823	1,060,840	1,065,335	904,217	907,144	
	事業費	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000	
	人件費	992,823	920,840	925,335	764,217	767,144	
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	15	14	14	12	
	財源内訳(円)						
	国 支出金	0	0	0	0	0	
	県 支出金	0	0	0	0	0	
	起 債	0	0	0	0	0	
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
一般財源	1,132,823	1,060,840	1,065,335	904,217	907,144		
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	家庭や学校、または地域において、「あいさつ・声かけ」をすることは、自分の住む地域に深い愛着を抱くようになり、犯罪のない、安全な住み良い地域づくりが進んでいくことが期待される。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	青少年育成事業を実施している各団体と連携し、協力体制を築いており、青少年の非行防止と健全育成という目標達成に有効なものとなっている。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直し	青少年育成団体など多くのボランティア団体と協力して事業を展開している。			
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止						
	今後も児童・生徒の市内一斉清掃への参加呼びかけやあいさつ・声かけ運動をととして、青少年の非行防止、健全育成を目的に、地域・家庭・友人とコミュニケーションを図れる啓発活動として、感染対策を講じて可能な限り推進していく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～					
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進	SDGsとの関連性 				
事業名	人権啓発活動の充実						
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	人権尊重について、身近で大切なものと感じ、理解を深めることのできる啓発を行います。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-3-1						
活動実績及び成果	●人権啓発に係るパネル展の開催 国が定める人権週間(12月1日～8日)に合わせて、啓発パネルを展示 【開催準備】 ・(公財)人権教育啓発推進センター・人権ライブラリーにパネルの借用を申請(10月) ・市庁舎1階ホールの利用申請(10月) ・周知ポスター、チラシの作成(11月) 【広報活動】 ・市内中学校の全生徒に学校を通してチラシ配布、および市内小学校、コミュニティセンター等の公共施設にポスターを配布し掲示依頼 【パネル展開催】 ・期間:12月1日(水)～8日(水) 8時30分～17時 ・場所:市役所庁舎1階ホール ・内容:人権啓発パネル(48点)の展示 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用のご案内や消毒液を会場に設置						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		235,309	157,393	201,882	152,843	155,369
	事業費		6,196	3,920	47,660	0	1,940
	人件費		229,113	153,473	154,222	152,843	153,429
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	3	2	3	2
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		235,309	157,393	201,882	152,843	155,369	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない		人権問題は全ての人に関わるものであり、国や県と連携しながら市が周知啓発を図ることは重要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない		コロナ禍での実施となったが、来庁者がパネルを眺める姿が見受けられ、一定の成果があったと考える		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直し		啓発パネルは無料での借用が可能であり、最小限のコストで事業を実施している。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
		人権問題は基本的に終わりが存在しないものであることから、意識の高揚を図るため、今後も継続して事業を実施していく。来庁者が少しでも興味を持ち、足を止めてもらえるような工夫も必要であるとする。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～						
	目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
	施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実			SDGsとの関連性		
	事業名	市民遺産の認定			8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりも			
担当課	文化・生涯学習課							
事業の概要・目的		指定文化財以外で、市民に親しまれている身近な自然や歴史的・文化的な遺産を「龍ヶ崎市民遺産」として認定し、市民の地域に対する誇りや愛着の醸成を図ります。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-2						
活動実績及び成果		1 認定候補物件の公募 ・市公式ホームページにおいて「令和3年度市民遺産候補募集」の記事を掲載。 ・りゅうほー5月前半号において、令和2年度認定市民遺産の紹介と共に、令和3年度認定候補の募集記事を掲載。 ・9月末日までに1件の候補推薦があった。 【候補物件】鹿島神社の仙台藩関係石造物 【推薦者】鹿島神社総代 堀越武 2 候補物件についての調査 ・上記推薦を受け、候補物件に関する調査を実施。 3 文化財保護審議会への諮問・答申 ・教育委員会定例会での了承を得て、11月19日付けで文化財保護審議会に対し諮問。 ・12月10日に「令和3年度第1回文化財保護審議会」を開催。委員からの意見を取りまとめ、12月13日付けで市民遺産への認定が妥当である旨の答申を受ける。 4 市民遺産への認定・告示／認定書交付式の開催 ・令和3年第12回教育委員会定例会に附議し、12月22日付けで正式に市民遺産として認定。同日付けで告示。 ・1月14日に推薦者の堀越武氏を招いて教育長から認定書を交付。						
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)	3,528,651	2,612,927	3,011,714	2,629,590	2,439,344	
		事業費	1,084,780	924,720	1,546,600	1,254,000	1,135,200	
		人件費	2,443,871	1,688,207	1,465,114	1,375,590	1,304,144	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	46	34	39	35	32
		財源内訳(円)						
		国 支出金	0	0	0	0	0	
		県 支出金	0	0	0	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
		一般財源	3,528,651	2,612,927	3,011,714	2,629,590	2,439,344	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■		判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		市民遺産制度は貴重な歴史的・文化的資源の保存・継承に資するだけでなく、当市の魅力のひとつとしてまちの活性化等にも活用できるものであり、引き続き継続していくことが重要である。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		今回で通算15件目の認定となり、「平成33年度(＝令和3年度)までに12件」という当初目標値を既に上回る成果を挙げている。今後は指定文化財も含めた認定も視野に入れていく。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し		事業の性質上、民間委託等にはそぐわないものであり、また、受益者負担が伴うものではない。			
今後の方向性		■ 継続	□ 拡充	□ 改善	□ 廃止			
		市民遺産の認定がマスコミ等でも取り上げられ、それが当市の魅力を多くの方に知っていただくことや、シビックプライドの醸成にも繋がっている。市民遺産だけでなく指定文化財の認定も含めながら、今後も更なる「市のお宝」の発掘や龍ヶ崎のアピールに貢献していく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～						
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり						
	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実	SDGsとの関連性 					
	事業名	歴史的資源などの活用						
担当課	文化・生涯学習課							
事業の概要・目的		指定文化財や市民遺産などの資源を活用し、その他の地域資源と組み合わせた散策・観光コースを提案するなど、魅力的な環境づくりを推進します。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-3						
活動実績及び成果		1 国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像(複製)」公開展の開催 【期間】7/31～8/5(コロナ禍により一時中断)、10/2～10/24 【会場】歴史民俗資料館 企画展示室 2 指定文化財／市民遺産説明板の製作・設置 文化財等説明板を2基製作・設置した。 ・県指定文化財「龍ヶ崎の撞舞」 ・市民遺産「鹿島神社の仙台藩関係石造物」(新規認定) 3 歴史的・文化的資源を活用した事業の実施 ・11/16 旧竹内農場赤レンガ西洋館見学会(NPOとの連携事業) ・12/4 町並みゼミin龍ヶ崎(旧小野瀬家住宅他の見学会、NPOとの連携事業)						
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)	305,484	6,549,055	13,021,887	6,578,590	1,239,132	
		事業費	0	5,321,268	10,939,884	5,203,000	318,560	
		人件費	305,484	1,227,787	2,082,003	1,375,590	920,572	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	4	85	170	86	16
		財源内訳(円)						
		国 支出金	0	0	0	0	0	
		県 支出金	0	0	0	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
一般財源	305,484	6,549,055	13,021,887	6,578,590	1,239,132			
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	人口の減少化が進む中、「住み続けたい・住んでみたい」まちとなるよう、当市の大きな財産である歴史的・文化的資源を有効活用し、魅力を発信することは大きな意義があると考えます。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	市民遺産制度がスタートした平成27年度以降、のべ23件の説明板を設置するなど、歴史散策がしやすい環境づくりを着実に進めている。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し	他部署やNPO団体等とも協働し、効率的・効果的に歴史的資源を活用した事業を推進している。				
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止						
		コロナ禍にあることを考慮し、集客・参加型イベントの実施に際しては情勢を見極めながら、感染防止対策を講じたうえで実施可能な様々な事業を展開し、当市の魅力の発信・再発見に繋げていく。						

(2) スポーツ都市推進課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～						
	2	住んでみたいと感じるまちづくり						
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進			SDGsとの関連性			
	事業名	トップアスリートの育成			4 質の高い教育をみんなに 17 パートナリシップで目標を達成しよう			
担当課	スポーツ都市推進課							
事業の概要・目的		トップアスリートを育成するための環境整備を行います。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-2、5-4-2						
活動実績及び成果		1. 技術講習会 競技者の競技力向上を図るための技術講習会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。 2. スポーツ指導者講習会 下記のとおり実施する予定だったが新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止。 開催日：2月19日（土） 会場：ニューライフアリーナ龍ヶ崎サブアリーナ 内容：スポーツマンシップを考える～スポーツを愉しむことを通じて、一生闘える力を育むために～ 3. 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 ・激励金交付件数：56件 ・成績優秀者の表彰式：2月19日（土）（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため式は中止したが表彰は実施） 表彰対象者：10団体 個人63名 功労者（指導者）1名 4. 龍ヶ崎市2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会出場特別奨励金の交付 2020オリンピック東京大会サッカー男子日本代表で出場が内定した郷土出身選手を支援するため、選手1名（中山雄太選手）に特別奨励金を交付した。（令和3年7月）						
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)	2,464,164	2,570,936	2,965,435	2,110,444	4,827,103	
		事業費	1,242,228	1,036,202	1,114,765	1,346,227	2,218,815	
		人件費	1,221,936	1,534,734	1,850,670	764,217	2,608,288	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	32	33	39	28	64
		財源内訳(円)						
		国 支出金	0	0	0	0	0	
		県 支出金	0	0	0	0	0	
		起 債	0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
		一般財源	2,464,164	2,570,936	2,965,435	2,110,444	4,827,103	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	トップアスリートの活躍はスポーツ振興だけでなく市民のふるさと意識の醸成及び地域活性化につながるものと期待されており、トップアスリートの育成施策の必要性は高いと思われる。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	講習会については、トップアスリートや流経大運動部等の知見を活用した指導内容に対し参加者が満足している。また、激励金等についても選手の活動支援として活用されている。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し	講習会・表彰式については、市スポーツ協会及び流経大と連携して行うことで、効果的に市内スポーツ関係団体の活性化が図られるため、民間委託等の導入は適さない。				
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止						
		新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しながら、優れた素質を有するまたはトップレベルを目指している競技者に対し、高度な指導ができるようスポーツ指導者講習会等を定期的開催するとともに、ジュニア期からトップアスリートを育成していくため、市内スポーツ団体と連携し養成講座等の実施を検討していく。また、全国大会や国際大会に出場する選手への支援を継続していく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～					
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
	3	スポーツ環境の充実	SDGsとの関連性				
	事業名	流通経済大学運動部との連携	 				
担当課	企画課／スポーツ都市推進課						
事業の概要・目的	流通経済大学運動部応援ツアーの開催や総合運動公園における公式戦開催への協力、運動部活動の情報発信等を行うとともに、大学運動部と各種団体が連携したイベント開催等を推進し、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-1						
活動実績及び成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動可能なもののみ実施した。 (1)各運動部の公式試合日程等の情報提供 - 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各運動部の試合日程が公表されなかったため、市としても市広報紙、市公式ホームページや龍ヶ崎市駅デジタルサイネージなどの各媒体を活用した周知を行うことができなかった。 - その中でも、大学側から提供のあったサッカー一部関東大学一部リーグの準決勝・決勝進出及び優勝に関する情報や、全日本大学サッカー選手権大会準決勝出場について、市公式SNSによる周知を併せて行い、応援の呼びかけを行った。 (2)市の運動施設の優先貸出 - 総合運動公園における流通経済大学運動部の公式戦は、次のとおり開催された。 - サッカー：関東大学サッカーリーグ戦・・・5試合、関東サッカーリーグ(KSL)・・・12試合 - ラグビー：関東大学ラグビー春季大会・・・1試合 - 硬式野球：東京新大学野球連盟秋季リーグ戦・・・4試合 - 陸上競技：流通経済大学陸上競技会・・・5回(8日間) (3)応援バスツアーの開催 - 新型コロナ感染症拡大防止の観点から実施に至らなかった。 (4)市民と大学運動部との新たな連携方法の検討 - 市公式ホームページ内で、各運動部公式ホームページのリンクを掲載したほか、SNSを活用した情報発信を行い、大学運動部に対する市民の興味関心の向上に努めた。						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		1,003,951	1,011,653	1,016,686	152,843	153,429
	事業費		11,128	14,076	14,240	0	0
	人件費		992,823	997,577	1,002,446	152,843	153,429
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	13	13	13	2
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	15,500	0	0	0
一般財源		1,003,951	996,153	1,016,686	152,843	153,429	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	流通経済大学の全国トップクラスの運動部は、市にとっても大変大きな財産であり、その運動部の活動等の周知・支援を行うことは、まちの魅力度向上や若者の定着など、多くのメリットがあると言える。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	試合日程等の十分な周知が行えなかったものの、多くのプロサッカー選手を輩出するなど、流通経済大学の話題性は大きく、そうした情報を市民に広く周知することで、大学やまちへの愛着の向上に繋がることが期待できる。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直し	今年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から実施されたものの、応援バスツアー参加者負担金は、市バス使用料等を踏まえ適切に設定している。また、事務作業においても、大学と連携し、効率的に行っている。			
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
大学の認知度向上や市民の愛着向上など大学及び市の双方にとってメリットが期待できる事業であることから、今後も継続して事業を進めていく。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民と運動部の接点が大きく減少している傾向もあるため、試合観戦以外の交流や、さらなる情報発信の機会の創出を検討する。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～							
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり							
	3	スポーツ環境の充実			SDGsとの関連性  				
	事業名	マラソン大会開催							
担当課	スポーツ都市推進課								
事業の概要・目的		地域の特色を活かし、市内外の人々から親しまれ、愛されるような魅力あるマラソン大会を開催します。							
関連計画等での位置付け									
活動実績及び成果		1. 第1回龍ヶ崎たつのこハーフマラソン大会開催の中止について 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら規模を縮小し(種目はハーフマラソンのみ・茨城県内居住者18歳以上)、開催に向けて準備を進めてきたが、茨城県内でも感染拡大の傾向にあり事態の悪化が見込まれるため、ランナー、ボランティア等の安全、安心を最優先し、やむを得ず大会を中止とした。 ・4月23日にプレスリリースで中止を公表した。 ・関係スタッフ・協賛各社に対して中止の周知を行い、ランナーはダイレクトメールで中止の周知を行った。 ・8月2日にマラソン大会実行委員会において、第1回龍ヶ崎たつのこハーフマラソン大会実績報告・収支決算について、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面での審議を行い、了承を得た。 2. 令和4年度龍ヶ崎たつのこハーフマラソン大会について 令和4年度大会の中止決定 ⇒未だ新型コロナウイルス感染症流行の収束が見通せない状況であるため、令和4年度大会は中止することとなった。 ・10月の定例庁議で、大会開催可否について検討を行った結果、市の方針として中止の判断に至ったため、大会役員及び実行委員会の構成団体となっている関係機関及び市内スポーツ団体等への周知を行った。 ・市内向けには、12月後半市広報紙りゅうほうに掲載し、周知を行った。 ・市内外向けには、市公式SNS(ツイッター)で周知を行った。							
コスト情報		費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
		総額(円)		0	0	4,688,559	20,911,346	23,943,685	
		事業費		0	0	2,915,000	4,175,000	9,521,387	
		人件費		0	0	1,773,559	16,736,346	14,422,298	
		市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)		76,014	0	0	61	274	315
		財源内訳(円)							
		国 支出金		0	0	0	0	0	
		県 支出金		0	0	0	0	0	
		起 債		0	0	0	0	0	
		その他(受益者負担など)		0	0	0	0	7,307,000	
一般財源		0	0	4,688,559	20,911,346	16,636,685			
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等					
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	市民がスポーツに親しみ気軽に参加できるスポーツイベントとして、マラソン大会は必要であるが、開催間際での中止の可能性やランナー、スタッフ、市民の感染に対する不安がある。					
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	新型コロナウイルス感染防止対策として、種目・定員を削減したハーフマラソン大会は、市内外から多くの参加者を呼び込むことは難しく、費用対効果の観点から、マラソン大会の規模や運営方法等を見直す必要がある。					
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☒ 見直し	市内関係団体から構成する実行委員会が所管し、多くのボランティア協力を得て実施することで、コスト減等の効果が期待される。今後、マラソン大会における運営内容を整理し、コスト抑制に努めていく。					
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 国等におけるイベント開催制限に関するガイドライン及び競技団体によるガイドラインに従い、大会開催の可否を含めた新型コロナウイルスの感染対策を踏まえ、大会実施計画を策定し、これまで準備を進めてきたものの、未だ新型コロナウイルス感染症流行の収束が見通せない状況により、令和4年度大会も中止するに至った。 ハーフマラソン大会は大規模イベントで準備に相当期間を要するとともに、日々変化していくコロナ禍での大会開催日の感染状況を予測することが非常に困難であるため、今後については他大会の動向や感染状況を注視しながら、開催に向けた取組を慎重に検討していく。							

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和3年度

戦 略	4	地域力の向上～安全・安心で住みよい環境づくり～				
目 標	12	スポーツ健幸日本ー【重点目標】				
施 策	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進			SDGsとの関連性	
事業名	旧北文間小学校改修工事			 		
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	校舎の改修を行い、高砂体育館と同様に、広く市民が利用できる運動施設とすることにより、市民の健康の向上を図ります。					
関連計画等での位置付け	国土強靱化計画関連事業					
活動実績及び成果	1. 旧北文間小学校第4期校舎改修工事 (1) 第4期校舎の用途変更に伴う修正設計業務委託を8月までに完成させた。 (2) 第4期校舎の改修工事を3月初旬までに完成させた。 2. 旧北文間小学校第4期校舎の管理運営 (1) 改修後の第4期校舎を龍ヶ崎市北文間運動広場の施設として位置付けるため、龍ヶ崎市運動広場の設置及び管理に関する条例改正案を作成し、9月議会に上程して令和4年4月から市民に有料で貸出しをする。 (2) 第4期校舎「スポーツサロン北文間館」の管理運営は3月議会の議決を経て、龍ヶ崎市総合体育館外15施設の指定管理者である「たつのこまちづくりパートナーズ」が管理することとなり、新たに基本協定・年度協定を締結した。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	63,035,346	0	63,020,146
	事業費	0	0	55,170,000	0	59,031,000
	人件費	0	0	7,865,346	0	3,989,146
	市民1人あたりの費用 (R03.10/1常住人口)	76,014	0	0	821	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	49,300,000	0	52,000,000
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	13,735,346	0	11,020,146	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	市民アンケートにおいても、スポーツ振興の施策として「だれもが気軽にできるスポーツ施設の整備」をあげる市民が多く、北文間運動広場「スポーツサロン北文間館」を開設することにより、さらなるスポーツ環境の充実を図る。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	総合体育館・高砂体育館の利用率も高く、スポーツサロン北文間館を開設することにより、市民がスポーツに参加する機会が増え市民の健康増進の向上につながる。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直し	指定管理者が管理をすることにより、市のその他のスポーツ施設と一体的に管理することができ運営の効率化が図れる。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
	市民の高齢化が進むなか、身近な場所で気軽にできるスポーツ施設を増やすことにより、スポーツ環境の充実及び市民のスポーツ実施率の増加を図り、利用しやすい施設運営とともにイベント・教室等の内容を充実していくことが必要。					

2 龍ヶ崎市教育委員会の事務に 関する点検評価報告書

文化・生涯学習課

施策名	1 義務教育の充実		
施策の内容	(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進		
事業 No	1 2	事業名	郷土学習の推進
担当課	指導課／文化・生涯学習課		

事業内容	撞舞に代表されるような、本市の伝統的な文化や歴史などに触れることができる体験学習や、「まち探検」の実施のほか、社会科副読本「わたしたちの龍ヶ崎」の活用など、学年ごとに応じた授業を実施します。 また、市内の史跡をめぐり、郷土の歴史などを学習する「フォトラリー」などの活動を推進します。				
実施状況	1 小学校 1, 2 年生 生活科 小学校 1, 2 年生では、生活科「わたしの町はっけん」という単元において地域について校外学習を行い、学区内における史跡や名所、公共施設等の見学に取り組んでいます。地域の自然や文化に触れる機会を通して、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるように指導にあたっています。今年度はオンライン形式で施設等の見学等を行うなど各校で工夫して行いました。 2 小学校 3, 4 年生 社会科 小学校 3 年生から社会科副読本「わたしたちの龍ヶ崎」を活用しながら龍ヶ崎の土地の特徴や、産業、情勢、特色等を学ぶ地域学習を実施しています。龍ヶ崎の歴史や文化についても「郷土の伝統・文化と先人たち」を年間指導計画に位置付けて学習を進めています。龍の子人づくり学習の要素を取り入れながら計画的に指導を行うことができました。 3 龍の子人づくり学習における郷土学習の研究指定校の取組 愛宕中学校区と城南中学校区を研究指定校に指定し、コロナ禍でも可能な体験学習について調査研究に取り組みました。研究発表会は実施できませんでしたが、成果を資料にまとめ各中学校区で共有しました。 4 文化財を活用した郷土学習の推進 龍ヶ崎市学校運営研究協議会との連携による「龍ヶ崎発見（フォトラリー）活動」を実施しました。ポイントとなる 17 の神社や寺院を設定し、夏季休業日期間を利用して見学し、龍ヶ崎市のよさを再発見する活動に取り組みしました。 対象：市内の小学校 3 年生と保護者 内容：活動に参加しての感想をマイライブラリーにまとめ、市役所 1 階フロアで 12 月 25 日～1 月 7 日まで展示 5 第 9 回いばらきっ子郷土検定への参加 市内予選：市内 6 中学校 2 年生対象 10 月中に各学校において実施 県大会：交流会に変更				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童生徒の割合	児童 57.9% 生徒 33.2%	63% 38%	48.6% 33.5%	現行の指標を維持
成果・課題等	令和 3 年度もコロナ禍の影響で地域の行事が中止といった影響もあり、目標値には及びませんでした。 龍ヶ崎市の歴史や文化に関する郷土学習・地域学習については龍の子人づくり学習との関連を図りながら一層推進すべく引き続き指導助言にあたります。 また、感染状況に応じて、オンライン形式やゲストティーチャー形式、訪問形式など学習形態を変えながら郷土学習を進めていきたいと考えます。				

施策名	1 義務教育の充実		
施策の内容	(3) 地域の特性を活かした魅力ある学校づくりの推進		
事業 No	24	事業名	教育の日推進事業の充実
担当課	文化・生涯学習課／教育総務課／指導課		

事業内容	11月5日の龍ヶ崎教育の日を含む11月の龍ヶ崎教育月間に、市民みんなで子ども達の教育について考える契機となるよう、学校・家庭・地域や幼稚園・保育園（所）・認定こども園等が連携して、様々な取組を展開します。 また、各小中学校で作成している「家庭学習の手引き」や茨城県が発行している「家庭教育ブック」の活用を促すとともに、親子や家族で過ごす時間の大切さが認識されるような啓発活動を展開します。				
実施状況	1 教育の日推進事業実行委員会の開催について 新型コロナウイルス感染拡大防止のため事務局にて資料を作成し、委員に郵送することで了解を得ました。 (1) 令和3年6月 事業計画（案）、予算（案）について (2) 令和4年3月 事業実績、決算について 2 作品募集 以下の3つのテーマで、市内小中学生とその保護者、市民を対象として募集しました。10月を募集期間とし、総計1,460点の応募があり、抽選で100名にまいりゅうミニトートバッグを贈呈しました。 (1) 私の漢字一文字！：家族のルール、友人との大切な思い出、今後の目標などを漢字一文字で紹介。 (2) おうちで作るおすすめメニュー：「龍ヶ崎にちなんだメニュー」「スイーツメニュー」「パパ、ママの時短メニュー」 (3) 龍ヶ崎の未来予想図！：龍ヶ崎のここがこうなるともっと快適に生活できる」や「理想の龍ヶ崎」 3 広報活動の充実 (1) 市広報紙「りゅうほー」への掲載：コロナ禍での児童生徒の学校生活の様子を紹介しました。 (2) 市公式ホームページへの掲載：入賞作品を紹介しました。 (3) 作品募集のチラシ作成：教育機関への配布及び設置を行いました。 (4) 横断幕、のぼり旗の掲示：PR用横断幕を市役所庁舎壁面及びJR常磐線龍ヶ崎市駅に掲示を行い、のぼり旗を市役所正面玄関前、各小中学校、幼稚園、保育園、認定こども園、公共施設等に設置しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値（H27）	目標値（R3）	実績値（R3）	指標の今後の取扱い
	教育の日推進事業における小中学校等の自由参観者数	13,114 人	18,000 人	—	現行の指標を維持
成果・課題等	主要事業として、3つのテーマを設けて作品募集を実施したところ、工夫を凝らしたり、家庭で取り組んだりがうかがえる素晴らしい作品が集まりました。 選考を経て入賞作品を市公式ホームページに掲載し、市民に公開することができたことは、成果であると考えています。「龍ヶ崎教育月間」及び「龍ヶ崎教育の日」を中心に教育の日推進事業を展開したことで、児童生徒・保護者が、家族や地域について考えるきっかけとなりました。 今後の課題としては、「持続可能」な事業内容の選定であると思われます。「新しい生活様式」「家庭・学校・地域の連携」をベースに「龍ヶ崎教育の日と言えば」という発信に重点的に取り組んでいきます。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業 No	4 1	事業名	各種セミナーの開催
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	子育てふれあいセミナーのほか、家族の絆の大切さを高める研修会や親子で参加できる講座を開催することにより、児童の健全育成に努めます。 また、市内事業者を対象に、子育てや親子のふれあいに関する啓発活動を展開します。				
実施状況	令和3年度は、小学校1・2年生の保護者を対象に、家庭教育や子育てに関する研修会を実施しました。 1 子育てふれあいセミナーの実施 【全体研修会】 日 時：7月8日 2部開催 (①10時00分～11時00分 ②13時00分～14時00分) 場 所：龍ヶ崎市役所附属棟 1階第1会議室 講 師：親業訓練シニアインストラクター 富澤 優江 先生 演 題：親子の会話で育む問題解決力と自己肯定感 参加者：延べ62名 【学校単位での研修会】 日 時：10月下旬～12月上旬 延べ9回 13時30分～14時30分 場 所：各コミュニティセンター 講 師：栄養教諭 中井 晴香 先生 演 題：龍ヶ崎市における学校給食について ～学校と家庭が連携した食育の推進～ 参加者：延べ40名 2 子育てふれあいセミナー通信の作成及び配布 小学校1・2年生の保護者(1,100名)に通信を発行し、情報提供を行いました。(年間4回発行) 【掲載内容】 ・子育てふれあいセミナーの各研修会の概要周知及び参加者の感想等 ・茨城県総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室が運営するサイト「家庭教育応援ナビ」の周知 ・子育てに関する情報や相談窓口の連絡先				
数値目標(成果指標)	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	子育てふれあいセミナーの延べ参加者数	805人	1,000人	102人	現行の指標を維持
	親子ふれあい教室の延べ参加者数	82人	100人	—	指標の廃止を検討 H28以降実施なし
	家の人と学校での出来事について話をしていると答えた児童生徒の割合	児童 76.2% 生徒 70.8%	80% 75%	—	指標の廃止を検討 全国学力・学習状況調査での質問項目が変更となり数値の取得が困難なため
	毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童生徒の割合	児童 79.8% 生徒 73.4%	85% 78%	80.9% 77.2%	現行の指標を維持
	毎日、同じくらいの時間に起きていると答えた児童生徒の割合	児童 91.1% 生徒 93.0%	90%以上 90%以上	88.0% 93.2%	現行の指標を維持
	毎日朝食を食べていると答えた児童生徒の割合	児童 95.7% 生徒 94.0%	95%以上 95%以上	95.3% 93.0%	現行の指標を維持
	平日(休日)に家で1時間以上勉強をしていると答えた児童生徒の割合	児童 51.8%(57.9%) 生徒 65.1%(67.6%)	57%(63%) 70%(73%)	56.0%(66.0%) 73.1%(78.2%)	現行の指標を維持
	1日当たり1時間以上ゲームをすると答えた児童生徒の割合	児童 57.5% 生徒 62.5%	53% 58%	81.4% 82.6%	現行の指標を維持
	1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間以上通話やメール、インターネットをすると答えた児童生徒の割合	児童 19.8% 生徒 55.0%	15% 50%	—	実績値なし→指標の変更を検討 「1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間以上SNSや動画視聴をすると答えた児童生徒の割合」とする
成果・課題等	「全体研修会」での2部開催や「食に関する研修会」では、学校単位での実施を基本とするなど感染症対策を講じて実施しました。成果としては、参加者は多くありませんでしたが、研修後のアンケート結果では、満足度のポイントが高い評価となりました。子育てのヒントになるとともに、家庭教育の必要性や重要性を伝えることができた内容であったと言えます。また、参加申込に係る事務を当課で行う等改善し、学校側及び教職員の負担を軽減することができました。 今後、支援や情報が必要としている家庭にどのように届けていくのかという点や、多様なニーズを吸い上げながら、保護者が選択しやすい方法での学習機会の提供について、工夫していくことが課題です。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業 No	4 2	事業名	相談体制の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	子育てに関する悩みや、子どもの学校生活等における心配ごとなどの解消に向けて、家庭教育指導員による相談体制の充実を図ります。 また、相談内容に応じて、関係機関との連絡調整を行うなど、相談者の心配ごとの解消に努めます。				
実施状況	家庭教育相談の実施 多様化する子育てに関する悩みや、青少年に関わる家庭教育の悩みなどの解決を図るため、家庭教育指導員が面談や電話相談にて家庭教育相談を行いました。 小中学生や高校生を抱える保護者からは、家庭や学校での生活に関する相談が中心ですが、高校教育を終えて成人した子どもをもつ保護者からの相談も増加傾向にあります。具体的にはニートや引きこもりといった内容に加え、家庭環境の変化に伴う生活支援や自立支援の相談も散見されました。 相談者に対しては、相談内容をよく聞き取り、悩みに対する提案を行うとともに相談機関を紹介するなどの業務を実施しました。 ○家庭教育指導員による相談件数 ・電話相談件数： 4 件 ・面談件数： 12 件				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	家庭教育指導員による相談件数（電話相談・面談）	15 件	モニタリング	16 件	現行の指標を維持
	平日（休日）に家で1時間以上勉強をしていると答えた児童生徒の割合	児童 51.8% (57.9%) 生徒 65.1% (67.6%)	57% (63%) 70% (73%)	56.0% (66.0%) 73.1% (78.2%)	現行の指標を維持
	1日当たり1時間以上ゲームをすると答えた児童生徒の割合	児童 57.5% 生徒 62.5%	53% 58%	81.4% 82.6%	現行の指標を維持
	1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間以上通話やメール、インターネットをすると答えた児童生徒の割合	児童 19.8% 生徒 55.0%	15% 50%	—	実績値無し→指標の変更を検討 「1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間以上 SNS や動画視聴をする と答えた児童生徒の割合」とする
成果・課題等	相談者の相談内容（成人した子どもの就職について、高校生の生徒指導等）に応じて、適切なアドバイスを行い、心配ごとの解消に向けた相談業務を実施しました。 相談活動の成果として、定期的・継続的な相談活動を通して、相談者とのつながりを切らすことなく、良好な信頼関係を持ち続けることができました。また、相談内容に応じて関係機関の情報を相談者に提供することで、より専門的な支援につなげることができました。 今後についても、学校や地域、教育委員会、福祉関係機関と連携を図りながら、個々の相談に応じたサポートを、継続して行う必要があります。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業 No	4 3	事業名	基本的な生活習慣の定着
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

事業内容	子ども達が健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養及び睡眠が大切であることから、「早寝・早起き・朝ごはん」に関する普及啓発を行い、子ども達の基本的な生活習慣の定着に努めます。				
実施状況	1 就学時健康診断での家庭教育講話の実施 10月～11月に、翌年度、市内小学校に入学予定児童の保護者約550名を対象に実施しました。 市内全小学校（11校）の就学時健康診断の際に、家庭教育指導員または社会教育主事が新入学児童の保護者に対して、家庭教育講話を行いました。「家庭教育応援ナビ」茨城県総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室が運営するサイトより掲載資料「子育てアドバイスブッククローバー」に沿った内容で実施しました。 2 子育てふれあいセミナー「食に関する研修会」の実施 栄養教諭により、小学校1・2年生の保護者を対象とし、「龍ヶ崎市における学校給食について～学校と家庭が連携した食育の推進～」をテーマに講話を行いました。市内のコミュニティセンター9か所にて実施し、延べ40名が参加しました。研修会の中で、「調和のとれた食事」や子ども達が摂取しやすい朝食メニューや調理の工夫等を紹介しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童生徒の割合	児童 79.8% 生徒 73.4%	85% 78%	80.9% 77.2%	現行の指標を維持
	毎日、同じくらいの時間に起きていると答えた児童生徒の割合	児童 91.1% 生徒 93.0%	90%以上 90%以上	88.0% 93.2%	現行の指標を維持
	毎日朝食を食べていると答えた児童生徒の割合	児童 95.7% 生徒 94.0%	95%以上 95%以上	95.3% 93.0%	現行の指標を維持
	平日（休日）に家で1時間以上勉強をしていると答えた児童生徒の割合	児童 51.8%(57.9%) 生徒 65.1%(67.6%)	57%(63%) 70%(73%)	56.0%(66.0%) 73.1%(78.2%)	現行の指標を維持
	1日当たり1時間以上ゲームをすると答えた児童生徒の割合	児童 57.5% 生徒 62.5%	53% 58%	81.4% 82.6%	現行の指標を維持
	1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間通話やメール、インターネットをすると答えた児童生徒の割合	児童 19.8% 生徒 55.0%	15% 50%	—	実績値なし→指標の変更を検討 「1日当たり携帯電話やスマートフォンで1時間以上SNSや動画視聴をすると答えた児童生徒の割合」とする
成果・課題等	子育て中の親や家庭のあり方、子どものしつけと虐待の違いなどについて学習する機会を提供しました。 就学時健康診断の席で、「子育てアドバイスブッククローバー」を含む「家庭教育応援ナビ」の案内を配布し、会場では、QRコードにスマートフォンをかざして、サイトを閲覧する保護者の姿が見られました。必要な情報を入手するまでの手軽さとレスポンスのよさが求められるので、市公式ホームページを活用した情報提供や発信力の向上が課題です。 基本的な生活習慣の定着に向けては、就学時健康診断に加え、子育てふれあいセミナーでの講演会の実施・資料等の配付により、家庭教育における基本的な生活習慣の定着の重要性について、保護者に対しての意識付けができました。 今後については、スマートフォンやインターネットなどメディアの使い方について、依存性や睡眠・心身への影響を周知し、家庭でのルールを設定することの必要性を啓発していきます。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業 No	4 9	事業名	学童保育ルームの充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	保護者の就労などを理由として、学童保育ルームの利用を希望する小学校 6 年生までの全ての児童が利用できるよう、家庭のニーズを把握しながら、必要な施設等の整備に努めます。 また、指導員の資質向上を図るとともに、学童保育ルームの効率的な運営に努めます。																																																							
実施状況	令和 2 年度より学童保育ルームの運営を民間事業者による業務委託とし、市内の全小学校で余裕教室や専用施設において、放課後児童健全育成事業（学童保育）を実施しました。 入所を希望する全ての児童を受入れるとともに、安定的な学童保育ルームの運営と施設の維持管理を行いました。 1 支援員の確保並びに備品の整備 委託業者へ加配対応児童や夏季休業期間の児童の増加に伴う支援員の確保に努めさせました。 児童数の増加に応じて備品等の整備を適切に行いました。 2 学童保育ルームの環境整備 夏季休業期間において、児童数の増加等に対応するため、児童の学習室・支援員の休憩室を学校より借用し夏季の保育ルームの環境整備を行いました。 また、熱中症対策のため、全教室にデジタル温湿度計及びエアコンを設置し、維持管理に努めました。																																																							
	<table><tr><th>学校名</th><th>4月1日</th><th>9月1日</th><th>3月1日</th></tr><tr><td>龍ヶ崎小学校</td><td>70</td><td>69</td><td>67</td></tr><tr><td>大宮小学校</td><td>24</td><td>22</td><td>17</td></tr><tr><td>八原小学校</td><td>212</td><td>177</td><td>158</td></tr><tr><td>馴柴小学校</td><td>131</td><td>118</td><td>107</td></tr><tr><td>川原代小学校</td><td>20</td><td>22</td><td>20</td></tr><tr><td>龍ヶ崎西小学校</td><td>77</td><td>74</td><td>65</td></tr><tr><td>松葉小学校</td><td>57</td><td>56</td><td>51</td></tr><tr><td>長山小学校</td><td>92</td><td>73</td><td>53</td></tr><tr><td>馴馬台小学校</td><td>85</td><td>57</td><td>45</td></tr><tr><td>久保台小学校</td><td>97</td><td>87</td><td>80</td></tr><tr><td>城ノ内小学校</td><td>138</td><td>134</td><td>111</td></tr><tr><td>合計</td><td>1,003</td><td>889</td><td>774</td></tr></table>					学校名	4月1日	9月1日	3月1日	龍ヶ崎小学校	70	69	67	大宮小学校	24	22	17	八原小学校	212	177	158	馴柴小学校	131	118	107	川原代小学校	20	22	20	龍ヶ崎西小学校	77	74	65	松葉小学校	57	56	51	長山小学校	92	73	53	馴馬台小学校	85	57	45	久保台小学校	97	87	80	城ノ内小学校	138	134	111	合計	1,003	889
学校名	4月1日	9月1日	3月1日																																																					
龍ヶ崎小学校	70	69	67																																																					
大宮小学校	24	22	17																																																					
八原小学校	212	177	158																																																					
馴柴小学校	131	118	107																																																					
川原代小学校	20	22	20																																																					
龍ヶ崎西小学校	77	74	65																																																					
松葉小学校	57	56	51																																																					
長山小学校	92	73	53																																																					
馴馬台小学校	85	57	45																																																					
久保台小学校	97	87	80																																																					
城ノ内小学校	138	134	111																																																					
合計	1,003	889	774																																																					
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い																																																			
	学童保育ルームの利用者数及び利用率	838人 (H28) 21.0% (H28)	モニタリング	1,003人 28.9%	現行の指標を維持																																																			
	学童保育ルームの待機児童数	0 人	0 人	0 人	現行の指標を維持																																																			
成果・課題等	○学童保育ルームの利用者数 : 1,003 人(5/1 時点)、利用率 28.9%（全児童からの割合） ○学童保育ルームの待機児童数：0 人 入所児童数の増加に対応するため、夏季休業期間は余裕教室を借用し、保育ルームの環境整備を行いました。今後も利用増加が見込まれる保育ルームについては、増設も含めた対応を検討し、待機児童ゼロを維持し、保護者の就労等を支援していきます。 子育てと仕事の両立を支援する重要な事業であることから、今後も民間事業者のノウハウを生かした支援員の確保及び研修等の充実による人材育成と、効率的で安定的なサービスの提供及び事業運営を行っていきます。																																																							

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業 No	50	事業名	アフタースクール・サタデースクールの充実
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

事業内容	放課後に実施する学習支援等を「アフタースクール」、土曜日に実施する学習支援等を「サタデースクール」と位置付け、児童の放課後及び土曜日における居場所づくりと学習支援の充実を図るとともに、生徒の学習支援の充実を図ります。 また、児童を対象とするアフタースクール及びサタデースクールは、学童保育と連携することで、効率的な学習支援等の充実を図ります。				
実施状況	1 アフタースクール 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から学校施設の通常教室を使用するアフタースクール事業の実施は困難であると判断し、令和3年度は中止しました。 2 サタデースクール - 令和3年4月 小学校第3学年から第6学年の児童とその保護者に対して、参加募集の準備を行いました。 - 令和3年5月 感染状況を勘案し、開催の延期を決定しました。 - 令和3年7月 令和3年10月からの事業開始を検討。業務委託先との調整を行いました。 - 令和3年8月 感染状況が芳しくないことから、本年度の中止を決定しました。 - 令和4年3月 次年度の実施を見据え、受託業者と情報交換を行いました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	アフタースクールまたはサタデースクールを実施した小中学校及び延べ参加者数	4 校 736 人	17 校 1,500 人	—	現行の指標を維持
成果・課題等	今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みた事業実施（6月開始，10月再開）を検討し、準備を進めましたが、中止という結果になりました。 令和4年度に向け、委託業者と情報交換を行いました。他市町村にはサタデースクールのような事業は無く、リモートによる実施やリモート自体未経験とのことから、「新しい生活様式」を取り入れ、参加児童に安全・安心を確保しながら、多様な経験が得られる活動の提供が必要となります。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業 No	5 1	事業名	青少年センターの充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	青少年相談員による巡回パトロールやあいさつ・声かけ運動や相談体制の充実により、青少年の問題行動の未然防止に努めるとともに、規範意識の高揚を図ります。 また、青少年センター、青少年育成龍ヶ崎市民会議、関係機関及び団体と連携し、青少年の問題行動の未然防止キャンペーンや啓発活動などを実施します。 さらに、青少年の健全育成に協力する店への新規登録店舗を確保しながら、地域における青少年の健全育成に対する意識の高揚に努めます。				
実施状況	1 定期的な巡回指導及び設置事業者への指導 「青少年への有害図書等の販売や閲覧の禁止」のチラシを店舗巡回にて配付し、事業所等においてしました。 2 違法屋外広告物の巡視 青少年相談員による、違法屋外広告物（貼りビラ・捨て看板）の巡視を実施しました。 3 青少年の健全育成に協力する店との連携 市内の『青少年の健全育成に協力する店』登録の92店舗を訪問し、継続した協力をお願いしました。 【令和3年度実績】『青少年の健全育成に協力する店』の登録率：98% 4 あいさつ・声かけ運動 7月・11月：市立小中学校、コミュニティセンターにのぼり旗を1か月間設置しました。 7月5日：市立小学校において、登校時に「あいさつ・声かけ運動」キャンペーンを実施しました。 11月1日：市立小学校での「あいさつ・声かけ運動」に加え、ショッピングセンター（2か所）でキャンペーンを実施し、啓発グッズ（ウェットティッシュ）600個を配付しました。 5 市内巡回パトロール及び街頭指導 感染症の感染状況を勘案しながら、パトロール車による巡回を実施しました。主に児童生徒の登下校時間帯の交通安全指導や通学路の巡回、日没以降の公園で遊ぶ児童に早めの帰宅を促しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	青少年関連団体による市内巡回パトロール回数及び延べ参加者人数	64 回 160 人	モニタリング	27 回 58 人	現行の指標を維持
	青少年の健全育成に協力する店の登録率	100%	100%	98%	現行の指標を維持
成果・課題等	青少年の非行防止と、犯罪の未然防止に向けた取組を行い、市民の意識高揚を図りました。 例年に比べるとキャンペーン等は、縮小して「できる範囲」での活動になりましたが、実施した状況からは、子ども達の笑顔、参加者の満足感、市民からの感謝の声が得られ、充実した取組となりました。 『青少年の健全育成に協力する店』では、店舗の閉鎖もある中で、新たに3店舗の協力が得られました。未登録店舗の協力が課題ですが、チェーン店舗としてのスタンスに理解を示しつつ、店舗側との信頼関係を保ちながら、訪問を継続しています。青少年の健全育成に向け、地域が一体となり取り組むことが重要なことから、途切れることなく働きかけを行います。 今後は、感染防止対策を実施することによりパトロール車での巡回人数を縮小するなど工夫しながらも、巡回回数は減らすことなく青少年の非行防止推進と、犯罪に巻き込まれないための環境づくりの推進に努める必要があります。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	5 2	事業名	子どもの交流・活動拠点の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	たつのこやま周辺などを子ども達の「遊びの拠点」と位置付け、子ども達の自由な遊びを育むとともに、子ども達の交流や活動拠点としての充実を図ります。 また、たつのこやま管理棟を利用して、サポーターやボランティアの見守りにより、自由に子ども達の発想で使うことができる場の提供に努めます。				
実施状況	たつのこやま管理棟内における「子どもの居場所づくり事業」 (1) NPO法人デディ・ベア (土・日曜日 10:30～15:30) 6 5 回開催 参加者数 8 4 2 人 (2) たつの子山囲碁クラブ (月曜日 14:00～16:30) 2 8 回開催 参加者数 3 4 人 (3) 龍ヶ崎市女性会 (木曜日 14:00～16:30) 2 8 回開催 参加者数 7 5 人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月～9月及び1月後半～2月を閉館としました。				
数値目標 (成果指標)	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	たつのこやま管理棟 (こどもの居場所) の 延べ利用者数	18,937 人	20,000 人	951 人	現行の指標を維持
成果・課題等	たつのこやま周辺などを子ども達の「遊びの拠点」と位置付け、子ども達が自由に遊ぶとともに、交流や活動の拠点となるように、管理棟内の施設や遊具等の充実を図りました。 NPO法人デディ・ベアのサポーターや地域のボランティアの見守りにより、自由に子ども達の発想で使うことができる場の提供を行いました。 たつのこやま管理棟での居場所づくり事業については、感染対策を講じ入場制限をして実施したため、利用者数は減少したものの、リピーターが多いことから利用する子ども達の満足度は高いことがうかがえます。 今後も感染対策を継続して行いながら、利用する子ども達の満足の得られる居場所の提供が必要となります。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	53	事業名	子ども会活動の活性化
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	地域での同世代が集い、活動する、子ども会活動の必要性について積極的に啓発しながら、各子ども会組織の活性化に努めます。 また、保護者や地域の協力のもと、社会性や自主性を育むための様々な体験活動を展開します。				
実施状況	1 館林市との交流 日 時：令和3年10月23日 場 所：龍ヶ崎市役所 5階 全員協議会室 内 容：リモートクイズ交流会 参加者：龍の子少年野球倶楽部 小学生12名 2 役員研修会 日 時：令和4年3月19日 場 所：ニューライフアリーナ龍ヶ崎 内 容：ニュースポーツ（まいりゅうコロコロ）研修 参加者：龍ヶ崎市子ども会育成連合会 会長外 5名 3 その他：新型コロナウイルス感染防止対策として、登録児童全員に「学習支援品（赤青鉛筆・シャープペンシル）」を配布しました。 ○新型コロナウイルス感染拡大により中止としたもの ・安全教育研修会 ・チャレンジキャンプ ・作文教室 ・研修視察 ・球技大会（野球、ミニバス） ・ニュースポーツ（まいりゅうコロコロ）体験会 ○令和3年度市子ども会育成連合会の児童の加入者：888名（令和4年3月末現在）				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	市子ども会育成連合会の児童の加入率	39.3%	40%	16.4%	指標の変更を検討 市全体の人口及び児童数の減少に加え、コロナ禍の情勢も重なり、加入単子や加入児童数も減少が続いている状況の中で子ども会への児童の加入率の増加を期待するのは厳しいと思われる。
成果・課題等	子ども達の社会性や自主性を育み、未来を担う心豊かでたくましい子ども達を育成するために予定していた多くの事業が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる中で、館林市との親善野球大会をリモートクイズ交流会へと形を変えて開催したことは成果となりました。 今後の課題としては、コロナ禍での活動に対する認識や考え方に相違が見られたことから、子ども達が安心して参加できることを基盤とした活動の充実を図ることが重要と考えます。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	54	事業名	子どもの地域活動への参加促進
担当課	文化・生涯学習課／指導課／コミュニティ推進課		

事業内容	関連団体との連携により、子ども達に地域活動への参加を呼びかけます。 また、地域における身近な施設であるコミュニティセンターにおいて、子どもまたは親子を対象とした各種講座や行事を通じて、子どもの健全育成及び各種啓発を図ります。				
実施状況	【市内一斉清掃活動への参加】 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常年3回（6月・11月・3月）の一斉清掃が中止 青少年育成龍ヶ崎市民会議と連携して小中学校を通した児童・生徒への参加呼びかけを計画しました。 令和4年3月に青少年育成龍ヶ崎市民会議が作成した「まちづくりポイント手帳 1,600冊（新1年生～新3年生分）」を、学校を通じて配布しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた児童生徒の割合	児童 65.3%(H28) 生徒 68.7%(H28)	71% 74%	—	指標の廃止を検討 全国学力・学習状況調査での質問項目が変更となり数値の取得が困難なため
	児童生徒の市内一斉清掃活動への参加率	19.3%	25%	—	現行の指標を維持
	コミュニティセンターで子どもを対象にした講座の開催数及び延べ利用者数	9 講座 546 人	モニタリング	9 講座 27 人	現行の指標を維持
成果・課題等	地域活動を通して子ども達に地域の担い手としての自覚や地域への愛着心が育まれるものと考えます。 今後も学校や青少年育成団体等と連携し、「まちづくりポイント制度」などを活用しながら、市内一斉清掃やコミュニティセンターを中心とした地域活動に参加しやすい環境づくりに努めます。				

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	55	事業名	新成人の交流促進
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	次世代を担う若者の交流を促進するとともに、大人としての自覚と責任感の高揚を図るために、新成人が主体の企画・運営による成人式典を開催します。																																															
実施状況	前年度（令和2年度）の成人式典は、急速な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、急遽開催を控えた経緯がありました。令和3年度も式典の準備段階や開催時期に感染症の急拡大が想定されたため、式典で扱う内容を慎重に検討し、できる限りの感染症対策を講じながら開催しました。																																															
	○ 龍ヶ崎市成人式典 【式典開催日：令和4年1月9日（日）】 新成人が式典を主体的に企画・運営するため、成人者の中から「成人式運営委員会」を組織して準備を進めました。例年は「第1部で来賓祝辞や成人者代表による抱負発表など式典行事」、「第2部はアトラクションとしてビンゴゲーム」などを行っていましたが、感染防止のため「式典行事のみ」としました。「成人を祝い自覚と責任感の高揚を図る」席となるよう、今できる最大限の事業を実施しました。																																															
	【令和3年度 対象者参加状況】 <table><tr><td></td><td>参加人数</td><td>案内数</td><td>参加率</td></tr><tr><td>愛宕中</td><td>65</td><td>70</td><td>92.9%</td></tr><tr><td>城南中</td><td>61</td><td>141</td><td>43.3%</td></tr><tr><td>城西中</td><td>87</td><td>135</td><td>64.4%</td></tr><tr><td>長山中</td><td>68</td><td>84</td><td>81.0%</td></tr><tr><td>中根台中</td><td>133</td><td>143</td><td>93.0%</td></tr><tr><td>城ノ内中</td><td>205</td><td>282</td><td>72.7%</td></tr><tr><td>合 計</td><td>619</td><td>855</td><td>72.4%</td></tr></table> 【参加率の推移】 <table><tr><td></td><td>参加率</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>75.5%</td></tr><tr><td>平成30年度</td><td>76.8%</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>75.0%</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>-</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>72.4%</td></tr></table>						参加人数	案内数	参加率	愛宕中	65	70	92.9%	城南中	61	141	43.3%	城西中	87	135	64.4%	長山中	68	84	81.0%	中根台中	133	143	93.0%	城ノ内中	205	282	72.7%	合 計	619	855	72.4%		参加率	平成29年度	75.5%	平成30年度	76.8%	令和元年度	75.0%	令和2年度	-	令和3年度
	参加人数	案内数	参加率																																													
愛宕中	65	70	92.9%																																													
城南中	61	141	43.3%																																													
城西中	87	135	64.4%																																													
長山中	68	84	81.0%																																													
中根台中	133	143	93.0%																																													
城ノ内中	205	282	72.7%																																													
合 計	619	855	72.4%																																													
	参加率																																															
平成29年度	75.5%																																															
平成30年度	76.8%																																															
令和元年度	75.0%																																															
令和2年度	-																																															
令和3年度	72.4%																																															
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い																																											
	成人式典の参加率	73.8%	78%	72.4%	現行の指標を維持																																											
成果・課題等	コロナ禍でも成人式典を開催できるよう、実行委員会の運営方法、式典で扱う内容を一から見直し実施にこぎつけました。新成人が構成し成人式典を運営する「実行委員会」は、対面での会議は1回限りとし、その後の連絡調整はメールなどを使用して行いました。直接顔を合わせられないながらも委員同士が念入りに連絡を取り合い、当日もしっかりとした運営により、各会場素晴らしい式典となりました。 また、開催直前に感染の急拡大がみられましたが、令和3年度から「いばらき電子申請・届出サービス」を使用した申込方法を取り入れたことにより、急遽茨城県より要請のあった「ワクチン接種証明等の持参」についても、成人者への連絡など迅速に対応できました。従来よりも参加者の利便性に配慮でき、運営上の効率化に繋がる事例になったことは、令和3年度の大きな成果のひとつです。 令和4年度からは、「龍ヶ崎市成人式典」から「龍ヶ崎市 二十歳のつどい」として、新たな一歩を踏み出します。コロナ禍により三密を避ける等の課題があることが前提ですが、大昭ホール龍ヶ崎（龍ヶ崎市文化会館）大ホール1か所での開催は、これまで以上に新成人の交流の場になることが期待されます。実行委員会の運営方法、感染症対策など、分散開催で積み重ねた経験を活かしつつ、成人者にとって記憶に残る式典となるよう事業を展開していきます。																																															

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業 No	5 6	事業名	中央図書館の利便性の向上
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	中央図書館と各コミュニティセンターの図書室及び学校図書館との連携を図るとともに、新たなニーズを踏まえ、図書館の機能などを充実させることで、利用者の利便性を高めます。 また、パソコンやタブレット端末を活用した電子図書館の充実を図るとともに、ホームページや SNS を活用した情報発信の充実を図ります。				
実施状況	1 図書館35周年記念イベント開催 ①オカリナとキーボードのミニコンサート・子ども映画会・電子図書館まつり開催 ②読書通帳機利用開始、オリジナル記念トートバック販売開始 2 新規事業（主な事業） ①読書通帳機導入 貸出した本を銀行等の通帳のように記録 通帳は150円／冊で販売 市内小学生へ学校を通して無料引換券を配布 ②子ども映画会 2回開催 計49名参加 ③大人のための生涯学習講座「バスボムをつくろう」 1回開催 9名参加 ④ティーンズ向け図書館だより発行 3 継続事業の実施（主な事業） ①学校教育機関・社会教育機関との連携強化 「事業 No 5 8 子どもの読書活動の推進」参照 ②文化講演会 講師：三浦瑠麗氏 2月20日開催 159名参加 4 電子図書館 ①利用状況 延べ登録者数 1,886 人（前年度から 1.5 倍増加） ②利用促進 電子図書館キャンペーン 4月 新規登録者にオリジナルグッズプレゼント 電子図書館まつり 7月 操作説明、電子書籍選書体験、電子図書館を使用したおはなし会ほか 12名参加 5 広報活動 図書館ホームページ、図書館だよりの市メール配信、図書館 Twitter・Facebook による情報発信				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	中央図書館の延べ入館者数	204,595 人	226,000 人	92,916 人	指標の廃止を検討 今後、電子図書館をはじめ、Web サービスによる来館を必要としないサービスの充実が重要になると考える。
	中央図書館の利用者満足度	82.3%	85%	60%	指標の変更を検討 R3 年度は、アンケートの調査方法を変更したため、実績値が減少した。次年度、再度調査方法を見直す予定である。
	電子図書館の延べ貸出件数	667 件	1,000 件	13,682 件	指標の変更を検討 既に目標を達成し、今後更に利用が増える見込みである。
成果・課題等	新型コロナウイルスの感染レベルを考慮しながら、感染対策を講じて新規事業・継続事業を実施しました。35周年記念イベントで開催したオカリナとキーボードのコンサートは、図書館のイメージや可能性を広げるものとなりました。今後、図書館が読書推進・情報提供機関としてだけでなく、楽しむ場所・過ごす場所として活用されることが期待されます。 また、読書通帳機の導入により読書活動の推進を図ったほか、電子図書館は、キャンペーンや利用促進イベント開催の効果があり、登録数・貸出点数とも増加しました。 図書館利用案内等は、図書館ホームページや SNS による情報提供を継続して行っています。北竜台分館のテレワークスペースが感染対策のために予約制の利用であった時期に、Twitter で利用可能な席数を毎日発信し、利用者から好評を得ました。 今後、Web サービスを充実させ、蔵書検索の精度を上げるとともに、予約だけでなくリクエスト申請や貸出履歴の確認を可能とするなど、図書館システムの利便性向上が望まれます。				



▲35 周年記念イベントの様子



▲「バスボムをつくろう」の様子

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業 No	57	事業名	読書・学習環境の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市民の読書活動の意欲を高めるため、図書資料の充実を図るとともに、読書活動の普及啓発に努めます。また、図書館司書の資質向上を図るとともに、予約リクエストサービスやレファレンスサービスの向上を図り、読書・学習環境の充実を図ります。				
実施状況	1 北竜台分館オープン 9月25日にサプラスクエア2階に市立図書館の分館をオープンしました。オープン当日には記念式典を開催し、テープカット、公募で寄せられた作品の中から決定した愛称の発表と命名者への記念品贈呈、オリジナルノベルティグッズとコーヒー無料引換券の配付(先着100名)を行いました。 また、11月28日にオープン記念イベントとして、アルパミニコンサートとおはなし会を開催しました。(※感染対策のためオープンとは別日に開催) ○施設サービスの概要 ・開館時間 10時～20時、開館日数 189日(令和3年度) ・館内 受付カウンター、リーディングラウンジ、キッズスペース、図書スペース、テレワークスペース、カフェコーナーフリーWi-Fi 利用可 ・蔵書数 1,493点(令和4年3月末現在) 閲覧のみ ・窓口サービス 中央図書館資料の予約・貸出・返却、簡易なレファレンスサービス、iPad 館内貸出(新聞電子版3紙、dマガジン約500誌、電子図書館約29,000点の閲覧が可能) 2 中央図書館の施設整備 ・中央図書館2階和室を学習室(個人机10席)と授乳室へ改修 ・飲食スペースの充実 2階ギャラリーに11席を設置 3 図書資料の充実 (1) 購入点数 ・中央図書館 図書7,039点/視聴覚資料120点/電子書籍1,047点 雑誌123誌/新聞18紙 ほか ・北竜台分館 図書1,488点 (2) 除籍点数 9,326点 4 研修 (1) 図書館司書研修: 茨城県図書館協会主催の研修会など(19回延べ82名参加) (2) 学校図書館司書研修を開催: 外部から講師を招き、市内小中学校の学校図書館司書を対象に「魅力的なポップの書き方と展示の仕方」講座を開催(17名参加)				
数値目標(成果指標)	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	中央図書館の延べ入館者数	204,595人	226,000人	92,916人	指標の廃止を検討 今後、電子図書館をはじめ、Web サービスによる来館を必要としないサービスの充実が重要になると考える。
	中央図書館の利用者満足度	82.3%	85%	60%	指標の変更を検討 R3年度は、アンケート調査の回答方法を変更したため、実績値が減少した。来年度に再度変更する予定である。
	電子図書館の延べ貸出件数	667件	1,000件	13,682件	指標の変更を検討 既に目標を達成し、今後更に利用が増える見込みである。
成果・課題等	9月にオープンした北竜台分館は、6か月余りの間に目標としていた入館者数を大きく上回る41,370人が訪れました。分館では、館内の蔵書を閲覧限定にすることで、予約待ちが必要となる人気の本や話題の本を読むことができます。ほかにもテレワークスペースやカフェサービスの提供など、ショッピングモール内の立地を上手く活用して運営を行っています。 また、中央図書館では、要望の高かった学習室として2階和室会議室をリニューアルし、個人スペースが確保できる学習席10席を配置したことで、学習環境が向上しました。 初の分館がオープンした図書館ですが、課題の一つに蔵書数の問題があります。市図書館全体の蔵書数は、収蔵可能数の上限に達していて、購入数と同数の資料を除籍せざるを得ない状況が続いています。限られたスペースを活かし、市民のリクエストに適應する蔵書を構成していくとともに、書庫の増設を検討していくことが必要です。				



▲北竜台分館入口



▲2階学習室

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業 No	58	事業名	子どもの読書活動の推進
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	子ども読書活動推進計画に基づき、子ども達の自主的な読書活動への意欲が向上するよう、個々の子どもの興味、関心及び学習課題等に対応できる魅力的な読書活動の充実を図ります。 また、3～4か月児健康診査の際に、中央図書館・保健センター・読み聞かせボランティアが協力して絵本の読み聞かせを行い、絵本を通じて、親子のふれあいなどの大切さに関する意識の高揚を図ります。				
実施状況	1 子ども読書活動推進計画（第三次）の進行管理 子ども読書活動推進委員会 書面審議により2回開催（10月、3月） 2 子どもの読書についてのアンケート実施 第3次龍ヶ崎子ども読書活動推進計画の改定に向け、龍ヶ崎市の子どもの読書現況を把握し、基礎データとして活用するためにアンケートを実施 ①実施期間 令和3年11月26日～12月10日 ②対象 ・児童・生徒 市内小学校2年生及び5年生、市内中学校2年生（県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校含む）、市内県立高等学校2年生 ・保護者 市内幼稚園、保育園（所）、認定こども園2歳児及び5歳児クラス、つばみ園未就学児保護者 保健センターにおける乳幼児1歳6か月児健診受診者の保護者 ③回答率 児童・生徒 86.3%、保護者 17% 3 図書館における主な読書推進 ①子ども向けイベントの実施 子ども映画会 2回 49名参加、おはなし会の継続実施 計20回 95名参加 ほか ②ティーンズ向け図書館だよりの発行開始 ③出前講座の実施 城ノ内小学校、大宮小学校、城西中学校へ実施 各1回 計196名参加 ④学校への図書搬送「セレクト便」 毎週月曜日に、市内小中学校からのレファレンスに合った資料を団体貸出し、各校へ配送 3,186冊 ⑤保育ルームへの図書搬送「おまかせ便」 司書が選んだ50冊を団体貸出し隔月で配送 1,500冊 ⑥学校・学校図書館からのリクエストに応じて、団体貸出に適した図書を購入 430冊 101,460円 4 ブックスタート事業の実施 20回 341名参加				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	幼児(0～5歳)一人当たりの絵本・紙芝居貸出冊数	17.2冊	19冊	17.1冊	現行の指標を維持
	図書館の子ども向け講座・イベントの延べ参加者数	706人	780人	567人	現行の指標を維持
	週1回以上読み聞かせをしていると回答した保護者の割合	69.7%	77%	81.5%	指標の廃止を検討 次のアンケート時期が未定
成果・課題等	アンケート結果は、回答年齢で傾向が異なります。前回調査（平成28年）と比較して「読書が好き」の回答数が低下しましたが、2歳児で97.9%、小学2年生が94.3%となお高い数値となっています。また、読書量が低下している一方で、「読書は大切だと思う」、「学校図書館を利用する」という回答の増加が見られました。 図書館における子どもの読書推進事業は、新型コロナウイルス感染対策による休館や事業縮小により、イベント開催が難しい状況でしたが、感染状況を考慮しながら新規事業・継続事業を行いました。特に、学校図書館との協力・連携を強化し、学校への週1回の搬送を行うほか、学校図書館司書と連絡・調整を密に行いながら、学校が必要とする団体貸出用図書の購入を進めました。 令和3年度のブックスタートは、読み聞かせを行わずに絵本と絵本バックを手渡すのみとなりましたが、読み聞かせの方法や効果を説明するパンフレットを作成して絵本に添えることで、乳幼児と保護者が絵本を通してふれ合う大切さを伝えました。 今後、図書の搬送など図書館外で図書を利用することなど、来館しないサービスの充実が期待される場所ですが、一方で、子どもや保護者の居場所としての図書館・図書室のあり方について検討していくことも重要であると考えます。				



▲出前講座（城ノ内小）



▲夏休み子どもセミナー
（蚕と繭の不思議な世界）

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業 No	59	事業名	流通経済大学の図書館との連携強化
担当課	まちの魅力創造課／文化・生涯学習課		

事業内容	流通経済大学の知識の宝庫である図書館について、流通経済大学との連携を強化し、市民がさらに利用しやすくなるように努めます。 また、利用対象者について調整し、大学が持つ専門的な資料の有効活用を促進します。				
実施状況	平成18年より、流通経済大学の図書館は、20歳以上の市民（市在勤者を含む）も利用可能となり、専門的な資料の収集や知識の習得に利用されています。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、図書館や大学の教室を含めた全館の市民利用が制限されたため、同大学の知識の宝庫である図書館の利用促進を図ることが困難となり、実施には至りませんでした。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	流通経済大学図書館利用カードの延べ発行数	185 件	330 件	—	指標の変更を検討 人口が減る中で、発行枚数だけではなく、利用している方の満足度などの指標が必要
成果・課題等	流通経済大学龍ヶ崎図書館は、20歳以上の市民（在勤者を含む）であれば利用が可能ですが、周知が不足していると思われます。 また、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策のため、大学内の市民利用が制限されました。図書館も対象となったため、市民への利用カード発行自体がされず、利用はありませんでした。 令和4年夏にコロナ禍における新たな利用方法が提示される見込みです。今後、大学との連携を強化し、市広報媒体における周知を行って、大学が所蔵する専門的資料の有効活用の促進を図ることが必要です。				

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業 No	60	事業名	人材バンクの充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市民が講師として登録する人材バンクを活用し、幅広い年齢層に対応した各種講座や体験教室を実施し、講師と参加者双方の生きがいや満足度を高めます。 また、多様化する学習ニーズに対応するため、地域における人材の発掘や組織の育成と、その活用を図ります。				
実施状況	1 人材バンク制度の周知 市公式ホームページに人材バンク制度の概要と登録者、指導分野、条件等を掲載しています。また、講師や指導分野の魅力、講座内容などの紹介も行っています。 2 人材バンクの照会実績 8件（R元 13件、R2年度 9件） 3 人材バンク講師の募集 市公式ホームページで登録を募集しています。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	人材バンクを活用した生涯学習講座・教室開催数	3 講座	5 講座・教室	0 講座	指標の変更を検討 講座の主催は、コミュニティセンターや各施設が主体となっていて行っているため、情報提供に比重を置きたいため。
成果・課題等	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座を開催することができませんでした。 生涯学習関連講座は、コミュニティセンターをはじめ各施設など市役所内で数多く実施されていることから、今後は、各種講座等を主催するのではなく、各施設などで開催される講座についてタイムリーに市民の目に触れるようホームページを充実させ、とりまとめと情報提供に比重を置きたいと考えています。				

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業 No	62	事業名	生涯学習講座等の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市民の生涯学習に対する興味や関心を高めるため、市内外から専門的知識を有する人材を招聘し、講演会や体験学習などを開催します。				
実施状況	東洋大学の生涯学習プログラムによる講座開催、及び一昨年度実施して好評であった、シニア向けスマートフォン講座、50歳以上の方とシニアのための就職セミナーの継続開催など、実施を予定していた講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全て開催を見合わせました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	市が主催する市民大学講座（生涯学習講座）の開催数	6 講座	10 講座	—	現行の指標を維持
成果・課題等	令和3年度は、講座等を開催せず、人が集まることを極力避けることで新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いました。しかし、令和4年度以降は、ディスタンスを保つことが可能な会場の確保や Web 会議システムによる遠隔講座など「新しい生活様式」を取り入れた開催方法のほか、制限を緩和しての開催を検討しています。				

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業 No	64	事業名	出前講座の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	出前講座をPRするとともに、市民のニーズをとらえ、市職員が講師となるメニューや、市民及び民間企業との協力を得ながら、適宜、新たなメニューを追加するなど、出前講座の充実を図ります。				
実施状況	1 出前講座の実施状況 利用（開催）実績は35件で、昨年度から増減はありませんでした。 （H28年度93件、H29年度99件、H30年度77件、R元年度55件、R2年度35件） 2 開催数上位の課等の表彰 前年度実績において各課等で開催した講座の累計の上位3課を市長が表彰しました。 ●令和3年度表彰課 1位…健幸長寿課（「認知症サポーター養成講座」など、17講座） 2位…危機管理課（「自主防災組織で活躍しよう！」など、6講座） 3位…健康増進課（「新型コロナウイルスの現状と対応について」など、4講座）				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	出前講座の利用数	65件	80件	35件	指標の変更を検討 コロナ感染症が収束した後に、コロナ禍前のように利用要望があるか見通せないため。
成果・課題等	市民の興味・関心が特定の内容に偏る傾向にあり、特定の講座の開催が多くなっていますので、開催頻度の少ない講座の内容見直しや興味をもってもらえるような講座の新設等を検討する必要があります。民間企業などによる講座の拡充も検討課題です。				

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(3) 人権教育・啓発の推進		
事業 No	65	事業名	人権啓発活動の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	人権週間などを中心に、人権の尊重に関する理解を深めるための講演会の開催や関係団体との連携により、各種啓発活動を展開します。 また、市公式ホームページなどを活用して、人権に関する情報を積極的に発信します。				
実施状況	国の人権週間（12/4～12/10）に合わせて、人権意識の高揚を図るため、市役所1階ホールにおいて人権啓発パネルを展示しました。 ・期間：令和3年12月1日（水）～8日（水） ・場所：市役所庁舎1階ホール ・展示：人材ライブラリーから借りた「パネル」50点を展示 ・広報：ポスター・チラシを作成して市内中学校生徒全員へチラシを配布したほか、コミュニティセンター等公共施設と小学校へポスターの掲示を依頼  				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	人権教室の開催数	2回	4回	0回	現行の指標を維持
	人権週間に合わせた啓発活動数	1回	2回	1回	現行の指標を維持
成果・課題等	人権啓発パネル展については、周知には努めているものの児童・生徒の観覧数が伸びていないので、開催場所等について検討していく必要があります。 また、人権啓発パネル展以外の啓発活動についても検討していかなければなりません。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業 No	6 8	事業名	地域文化活動の育成及び支援
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	優れた文化芸術に触れる機会を提供しながら、市民参加型の事業を展開することで、地域文化に対する意識の高揚を図ります。 また、地域の文化芸術水準の向上に寄与する指導者の発掘や育成に努めます。 さらに、文化芸術活動に必要な情報を共有・活用できる情報提供システムを構築します。				
実施状況	1 文化団体との共催事業 ＜実施事業＞ ①創造展 ハーバリウム展示会：7/14～18, 250 人 体験教室（ワークショップ）「ハーバリウム」：7/18, 20 人 ②体験教室（ワークショップ）「初めての盆栽と山野草」：10/3, 15 人 ③第30回龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル：10/26～11/23, 12,096 人 ＜未実施の事業＞ 感染症拡大防止のため、文化の祭典をはじめ計 11 事業が中止となりました。 2 その他地域文化活動の支援事業 ＜実施事業＞ ①ひとりの演奏会：5/1～3, 12 人 ②美術館見学会（茨城県近代美術館）：2/24, 19 人 ＜未実施の事業＞ 文化団体育成事業（龍ヶ崎市文化協会加盟団体事業への施設優先貸出） 3 文化芸術活動の情報発信 当市の文化団体が加盟する文化協会の会報誌「緑龍文化」を発行し、加盟団体や文化芸術活動の一部を紹介しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	文化芸術フェスティバルの延べ来場者数	23,151 人	26,700 人	12,096 人	指標の変更を検討 コロナ感染症が収束した後に、コロナ禍以前のように来場者が戻るか見通せないため。
	文化会館の延べ利用者数	125,080 人	137,600 人	42,292 人	指標の変更を検討 コロナ感染症が収束した後に、コロナ禍以前のように来場者が戻るか見通せないため。
成果・課題等	コロナ禍のため、文化団体との共催事業は企画した 14 事業のうち 3 事業のみの実施となりました。 実施事業の 1 つである「市民文化芸術フェスティバル」は、コロナ禍で多人数での制作活動や練習ができなかった影響から、作品数や舞台への主演者数に減少が見られました。また、茶会などの体験催事や小・中学生が参加する音楽祭・作品展が中止になったこともあり、延べ来場者数は伸び悩みました。このような中、新たな試みとして開催した「ハーバリウム展示会・ワークショップ」では、参加者アンケートから多くの来場者が興味を持ち楽しんだ様子が伺え、芸術文化に触れる裾野拡大の一助になりました。 また、同じ分野の文化芸術活動を市内の仲間と一緒にやりたいという方に、文化協会の会報誌「緑龍文化」を通じ、活動内容等の情報を提供することができました。 指導者の発掘や育成に関しては、自治体・民間を含め様々な媒体により講座等が開催されていますので、自前で揃える必要性について検討していきます。				



▲「ハーバリウム」展示会

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業 No	69	事業名	文化会館の利便性の向上
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	文化会館が市民や市民団体の文化芸術活動の拠点として活用されるよう、適切な維持管理と、多様化するニーズに応じた管理運営を行います。 また、イベント情報や施設予約状況など、ホームページや SNS を活用した情報発信の充実を図ります。				
実施状況	1 文化会館設備の更新等（文化・生涯学習課執行分） ①非常用発電機更新工事（令和2年度からの繰越事業） 【事業費】35,343,000 円 【工 期】令和3年2月5日～9月14日 【概 要】地下にある非常用発電機に不具合が生じていたことから、新しい機器に更新しました。 ②モニタリングカメラ更新工事 【事業費】3,740,000 円 【工 期】令和3年12月13日～令和4年3月31日 【概 要】大ホール設置の舞台用カメラと確認用モニターの更新工事を実施しました。 ③自転車駐輪場修繕 【事業費】1,485,000 円 【工 期】令和4年1月21日～3月31日 【概 要】経年劣化が見られた自転車駐輪場の修繕を行いました。 2 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応 国や県の要請に従い、イベント開催時に、「感染防止策チェックリスト」による感染防止対策の実施状況の確認とチェックリストの公表を事業の主催者に指示しました。また、施設利用ガイドラインを見直し、施設管理者と事業の主催者が実施すべき具体的な対策を追加しました。 3 情報発信 ホームページ、広報紙、チラシなどによりイベント情報や施設予約状況などの情報を発信しました。				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	文化芸術フェスティバルの延べ来場者数	23,151 人	26,700 人	12,096 人	指標の変更を検討 コロナ感染症が収束した後に、コロナ禍以前のように来場者が戻るか見通せないため。
	文化会館の延べ利用者数	125,080 人	137,600 人	42,292 人	指標の変更を検討 コロナ感染症が収束した後に、コロナ禍以前のように来場者が戻るか見通せないため。
	文化会館（大ホール）の稼働率	55.8%	60%	39%	現行の指標を維持
	文化会館の利用者の満足度	95.2%	90%以上	97.6%	現行の指標を維持
成果・課題等	令和2年度に比べ臨時休館が少なかったこと、収容制限はあったもののイベントへの参加意欲が戻りつつあることなどから、延べ利用者数や大ホール稼働率に改善が見られました。 施設利用ガイドラインを見直し、施設管理者と事業の主催者が実施すべき対策を追加するなど、安全に施設を利用できるよう配慮し利用促進に努めていますが、今後コロナ感染症が収束したときに、以前のように利用者が戻るかが課題です。 コロナ禍により、利用制限等はあるものの、利用者からは引き続き高い満足度が得られています。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業 No	70	事業名	鑑賞・招聘型文化活動の充実
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市民の文化的な交流を深めるとともに、文化芸術に対する意識の高揚を図るため、芸術性の高い舞台作品などを鑑賞する機会の充実を図ります。				
実施状況	文化芸術の振興に関する事業 ①名作映画会「鬼滅の刃」：7/4, 592 人 ※2 回上映 ②山崎まさよしコンサート 2021：10/3, 398 人 ③ぬいぐるみミュージカル「ピノキオ」：12/5, 851 人 ※2 回公演 ④冬休み映画会「ドラえもん」：12/25, 516 人 ※3 回上映 ⑤みんなで楽しむ弦楽オーケストラ：1/16, 347 人 ⑥龍ヶ崎市文化会館フレンド会特別事業 映画上映「いのちの停車場」：2/27 419 人 ※2 回上映 ⑦宝くじ文化公演「吉田兄弟×レ・フレールスペシャルコラボコンサート」：3/6, 543 人 ⑧三山ひろしコンサート 2021：3/19, 748 人 ※2 回公演 ＜未実施の事業＞ 感染症拡大防止のため4事業を中止				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	文化会館（大ホール）の稼働率	55.8%	60%	39%	指標の変更を検討 大ホールの利用において、鑑賞招聘型事業の占める割合はほんの一部のため
	文化会館の利用者の満足度	95.2%	90%以上	97.6%	現行の指標を維持
成果・課題等	予定していた12事業のうち4事業は中止になりましたが、8事業を開催することができました。開催に当たり収容率を50%に制限しましたが、入場率の高い事業もあり、イベントへの参加意欲は改善してきていると思われます。 今後も、新型コロナウイルス感染症が収束を迎えるまでの当面の間は、国等の指針に従うことになりますが、イベント内容によっては収容率100%も可能とされていますので、コロナ対策を講じた上で収容率を引き上げ、鑑賞するための環境整備に努めていきます。 なお、実施したアンケート結果を集計・分析し、今後の事業へ適切に反映していくことが課題です。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業 No	7 1	事業名	文化財の指定及び保護
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	本市の伝統的な年中行事や祭礼、有形・無形の文化財を後世に継承するため、新たな指定文化財候補の掘り起こしなどを行い、文化財の保護に努めます。 また、文化財の普及啓発活動の充実を図るとともに、各種開発事業者との調整及び指導により、埋蔵文化財の保護に努めます。				
実施状況	1 文化財等説明板の製作・設置 【事業費】1,089,000 円 【完了日】令和4年3月23日 【概要】 県指定文化財や、新たに認定された市民遺産の説明板（計2基）を製作・設置しました。 ①龍ヶ崎の撞舞（県指定文化財 …根町／撞舞広場） ②鹿島神社の仙台藩関係石造物（市民遺産 …田町／竜ヶ崎二高隣）   ▲説明板（龍ヶ崎の撞舞） ▲説明板（鹿島神社の仙台藩関係石造物） 2 埋蔵文化財発掘調査の実施 【調査期間】令和4年2月1日～4月22日 【概要】 都市計画道路整備に伴い、馬場台第2遺跡（1,260 m²）と八幡作遺跡（50 m²）を対象に調査を実施。 古墳時代を中心とした住居跡（馬場台第2：13軒、八幡作1軒）や土器・石器等を発見しました。  ▲馬場台第2遺跡				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	市指定文化財の指定数	17 件	20 件	19 件	現行の指標を維持
成果・課題等	令和3年度における新規指定文化財の指定はありませんでしたが、市民遺産の認定（1件）と説明板の設置により、文化財の周知および保護意識の醸成を図りました。 また、馬場台第2遺跡と八幡作遺跡の発掘調査は、開発行為（道路整備事業）に伴う文化財の記録保存措置を関係機関との調整により適切に実施したものであり、今後は現地説明会や報告書等の関係資料を公開していくことで埋蔵文化財の周知と保護意識の醸成を図っていきます。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業 No	7 2	事業名	市民遺産の認定
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	指定文化財以外にも、地域住民に親しまれている歴史的及び文化的な特長を示すものや、自然及び景観等で価値があるものを指定文化財に準じる「龍ヶ崎市民遺産」として認定するとともに、市民遺産候補の掘り起こしを行います。				
実施状況	1 龍ヶ崎市民遺産の新規認定 文化財保護審議会への諮問・答申を経て、令和3年12月22日開催の教育委員会定例会において、新たに1件の龍ヶ崎市民遺産が認定されました。 【認定物件】鹿島神社の仙台藩関係石造物 (龍ヶ崎市民遺産第15号) 【所在地】田町(竜ヶ崎二高隣) 【所有者等】鹿島神社 2 市民遺産認定書交付式の開催 上記認定を受け、関係者を招待して市民遺産認定書の交付式を開催しました。 【実施日】令和4年1月14日 【会場】教育長室 ＜交付式参加者＞ ・鹿島神社氏子総代／堀越武氏 ・平塚教育長 ・木村教育部長 ・事務局（文化・生涯学習課）				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	市民遺産の認定数	6件	12件	15件	現行の指標を維持
成果・課題等	平成27年4月の市民遺産認定制度開始以来、順調に認定件数を増やし、累計で15件となりました。認定と説明板の設置は新聞記事として掲載され、文化財の周知と保護意識の醸成につながったものと考えます。 今後も市民遺産への認定を通して、後世に継承していきたい身近な“お宝”にスポットを当て、シビックプライドの醸成や、龍ヶ崎の魅力度向上を図っていきます。				



▲仙台と刻まれた石造物



▲仙台藩所縁の石灯籠

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業 No	7 3	事業名	歴史資源などの活用
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市内の指定文化財や市民遺産などを活用した見学会などを開催します。 また、市民が文化財に触れたり、学んだり、理解する機会を設けるなど、地域への誇りを醸成します。				
実施状況	1 国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像」(複製)公開展 展示期間：7/31～8/5(コロナ禍のため中断)、10/2～24 展示会場：歴史民俗資料館 来館者数：1,880人 2 市民団体等との連携事業 【11/6：旧竹内農場赤レンガ西洋館見学会】 主催：NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会 参加者数：30人 【12/4：町並みゼミ in 龍ヶ崎】 旧小野瀬家住宅や竹内農場赤レンガ西洋館を見学 主催：NPO法人全国町並み保存連盟 参加者数：36人				
数値目標(成果指標)	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	指定文化財または市民遺産等を活用したイベント件数	2件	5件	3件	現行の指標を維持
	指定文化財及び市民遺産等の説明板設置数	4件	16件	29件	指標の変更を検討 延べ設置数は毎年上積みされていくので、見直しをしていく。
成果・課題等	コロナ禍により参加型事業を実施できない状況が続き、全16幅が揃った絹本着色十六羅漢像(複製)公開展も当初の開催期間を数日で中断する事態にも見舞われましたが、感染状況が小康状態になったことで再開することができ、貴重な文化財を多くの市民に鑑賞してもらうことができました。 また、市民団体との連携により、旧竹内農場赤レンガ西洋館や旧小野瀬家住宅等の市民遺産や登録有形文化財を対象とした見学会を開催することができ、市民が文化財に親しむ機会を設けることができました。				



▲十六羅漢像公開展



▲赤レンガ西洋館見学会

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業 No	7 4	事業名	歴史民俗資料館の利活用の向上
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	歴史民俗資料館が、本市の歴史や伝統などを再発見する場や学びを深める場として活用されるよう、適切な維持管理と多様化するニーズに応じた管理運営を行います。 また、企画・収蔵展示や講演会の開催など、ホームページや SNS を活用した情報発信の充実を図ります。				
実施状況	企画展・収蔵品展の開催 1 常設展 2 ボランティア作品展「布れあい染織展」：4/20～5/9，入館 930 人 3 ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル展：7/3～18，入館 639 人 4 絹本著色十六羅漢展：7/31～8/5（臨時休館のため中断），入館 434 人 10/2～24（再開），入館 1,446 人 5 郷土作家展「諸岡佳」展：10/30～11/14，入館 1,483 人 6 収蔵品展：1/22～3/21，入館 1,741 人  ▲絹本著色十六羅漢展  ▲収蔵品展				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	歴史民俗資料館の延べ入館者数	30,536 人	32,000 人	13,178 人	現行の指標を維持
	歴史民俗資料館（体験学習室）の稼働率	47%	50%	24%	目標値の変更を検討 一般の貸出施設はなく、体験学習や機織りの準備作業として使用しているため。
	歴史民俗資料館の利用者（展示事業、普及事業、体験学習教室）の満足度	展示事業 97% 普及事業 98% 体験学習教室 100%	90%以上 90%以上 90%以上	98% 88% —	現行の指標を維持
成果・課題等	年間延べ入館者数は、前年度（9,216 人）に比べて増加したものの、コロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施で、臨時休館や来館者の地域を限定したことにより、目標値を大きく下回っています。 加えて、感染防止対策として、小学校の団体見学を中止し、資料館ボランティアの活動を制限する措置、普及事業や体験学習の大半を中止したため、入館者を伸ばすことができませんでした。 展示事業アンケートでは、98%の方から満足（非常に満足・満足）との回答を頂きました。また、普及事業の古文書講座（上級）で行ったアンケートでも 88%の方から満足との回答を頂きました。一方で、「回数が少ない、スピードが遅い」といった意見も頂きましたので、改善に向け検証を行います。 ホームページは、展示・収蔵品展の情報提供はもとより、コロナ禍による入館制限などの情報を随時掲載しています。 また、SNS は市役所の Twitter と Facebook に適時投稿しています。今後は資料館独自のアカウントを取得して、ダイレクトにタイムリーな情報発信を図ります。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業 No	75	事業名	体験学習の充実
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

事業内容	現代では見かけることが少なくなった機織りや藍染め、さらに龍ヶ崎とんび凧作りなど、現代まで伝えられてきた本市の郷土に関する体験学習を開催し、技能の伝承や先人たちの知恵を学ぶ機会の充実を図ります。 また、小学生が市内の史跡をめぐり、郷土の歴史などを学習する「フォトラリー」などの活動を推進します。				
実施状況	○体験学習の実施 ・実施事業 しめ飾り作り教室（12/4、16）、計 12 名 ・中止した事業 ①わら草履教室 ②草木染め教室 ③機織り教室 ④簡単機織り教室 ⑤折り紙教室 ⑥お手玉作り教室 ⑦竹細工教室 ⑧龍ヶ崎とんび凧作り教室  ▲しめ飾り作り教室				
数値目標（成果指標）	指標名	基準値 (H27)	目標値 (R3)	実績値 (R3)	指標の今後の取扱い
	歴史民俗資料館の延べ入館者数	30,536 人	32,000 人	13,178 人	現行の指標を維持
	歴史民俗資料館（体験学習室）の稼働率	47%	50%	24%	目標値の変更を検討 一般の貸出施設はなく、体験学習や機織りの準備作業として使用しているため。
	歴史民俗資料館の利用者（展示事業、普及事業、体験学習教室）の満足度	展示事業 97% 普及事業 98% 体験学習教室 100%	90%以上 90%以上 90%以上	98% 88% —	現行の指標を維持
	体験学習教室の延べ参加者数	319 人	335 人	12 人	目標値の変更を検討
成果・課題等	体験学習室の稼働率は、目標値の半分以下となりました。体験学習は、指導者と参加者が密になる作業が多く、また指導や作業を補助するボランティアは高齢の方が多くことから、感染防止を考慮し大半の教室を中止しました。さらに、機織りの技術を習得するボランティアの活動を制限したことも影響しました。 コロナ禍のため、体験学習は「しめ飾り教室」のみの実施となりました。感染症対策を講じ、1 回あたりの人数を 6 名に制限したこともあり、参加者数は目標を大幅に下回る結果となりました。アンケートは実施していませんが、参加者からは「楽しかった」「いいものが出来た」といった感想が寄せられました。 体験学習の指導者には高齢の方もおり、また指導できる技能を持った職員が異動したことで基準値当時のような内容や回数で開催することが困難な教室もありますが、受講人数を制限するなど感染防止対策を講じながら実施していく予定です。				

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業 No	76	事業名	郷土史の普及促進
担当課	文化・生涯学習課		

事業内容	市内の旧跡名所や神社仏閣などを見学する歴史散策会などを開催することで、本市の郷土や歴史などの理解を深めます。 また、市民団体との連携により、昔の暮らしや生活の様子などの理解が深まるイベント等を開催します。				
実施状況	1 郷土史普及事業 ①歴史散歩 6/20 (21人), 10/23 (20人), 11/27 (22人) ②古文書講座(上級コース): 8回, 受講希望者: 19人 2 市民団体との連携 ①資料館ボランティアとの連携 ア. 「布れあい染織展」の開催 イ. 各種体験教室の指導及び準備 ②龍ヶ崎古文書同好会との連携 ア. 古文書講座(初級コース): 8回, 受講希望者 7名 イ. 古文書の筆耕: 宮渕町豊崎家文書 ・コロナ禍により中止した事業 ①れきみん祭 ②駄菓子屋 ③撞舞コスプレ体験 ④小学校見学の昔の道具体験				
数値目標(成果指標)	指標名	基準値(H27)	目標値(R3)	実績値(R3)	指標の今後の取扱い
	歴史民俗資料館の利用者(展示事業, 普及事業, 体験学習教室)の満足度	展示事業 97% 普及事業 98% 体験学習教室 100%	90%以上 90%以上 90%以上	98% 88% —	現行の指標を維持
	歴史散策会の延べ参加者数	18人	60人	63人	現行の指標を維持
成果・課題等	歴史散策会は、駒馬台や久保台コミュニティセンター、市民活動センターと共催で実施し、目標値は達成しています。今後も保険加入の要件や引率人員の確保のため連携を継続していきます。 古文書講座は、外部講師を招いた上級コースと古文書同好会員と連携した初級コースを開催しています。初級で崩し字の基礎を学び、上級へ進みます。さらに学びたい方の人のために同好会を支援し、学習の場と資料を提供し、館蔵の未解読の資料の解読を進めています。ここで解読手法を習熟した会員に初級の講師を務めていただき、初級⇒上級⇒同好会⇒初級の講師と循環型の生涯学習を実践しています。 資料館ボランティアとの連携は、機織りや染色の技術習得と継承を目的に活動を支援し、その成果を染織展で公開し、機織りや染色教室で伝承しています。さらには、小学校の団体見学時に機織りの実演や綿繰りや糸紡ぎの体験指導、しめ飾り作り教室の藁の確保から製作補助と、多様な体験学習で連携を図っています。 また、コロナ禍で中止したイベントにおいても、駄菓子の販売や撞舞コスプレの着付けをはじめ、小学校の団体見学時に綿繰りの実演や体験の指導等で連携し、資料館事業において不可欠なパートナーとなっています。 今後は、8月に開催する「れきみん祭り」と「駄菓子屋」は、近年の酷暑とボランティアに高齢者が多いことから開催内容や方法について、ボランティアと協議を進めています。 なお、10月の社会福祉協議会の「ふれ愛広場」にあわせて開催する駄菓子屋イベントは継続します。				



▲市民遺産「屋代城跡の土塁」前

【令和 4 年度事業計画】

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン (主要施策の事業計画)

(1) 文化・生涯学習課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～	
目 標	1	子育て環境日本一【重点目標】	
施 策	1	「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現	SDGsとの関連性 4 質の高い教育を みんなに 8 働きがいも 経済成長も
事業名	学童保育ルームの充実		
担当課	文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確保し、学童保育や学習支援などの充実を図ります。		
関連計画等での 位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-1		
今年度の 取組内容	1業務委託による安定的な保育ルームの管理運営を図る。 (1)入所児童数や児童の特性に応じた支援員等の配置を進める。 (2)施設に必要な備品等の購入や施設の修繕を行い、児童が過ごしやすい環境整備を進める。 (3)委託業者へ支援員等のスキルアップに繋がる研修会の情報を提供し、個々の業務能力向上に努めさせる。 (4)委託業者と毎月の連絡調整会議や必要に応じた打合せを行い、運営について適宜指導する。		

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～	
	2	住んでみたいと感じるまちづくり	
	2	特色ある教育環境の創造	SDGsとの関連性 4 質の高い教育をみんなに
	事業名	多様な学習機会の提供	
担当課	文化・生涯学習課／指導課		
事業の概要・目的	サタデースクール・サマースクールなど、多様な学習機会を提供します。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-2		
今年度の取組内容	(1)サタデースクールの実施に係る基本方針に基づき、子どもたちが楽しいと感じられる学習や体験活動等ができる場を7月より提供する。対象学年は、第3学年～第6学年とする。 (2)市内のコミュニティセンターにて、サタデースクール体験会を実施する。 (3)民間事業者のノウハウを活かした運営により、児童の自主性・社会性を育むとともに、安全安心な子どもの居場所を提供する。 (4)サタデースクールに通わせたいと感じる保護者が増え、満足度が向上することを目指す。(アンケートの実施) ・参加者募集(4月下旬) ・参加者への決定通知書・運営業者決定(5月) ・運営開始(7月)		

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

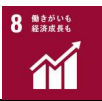
令和4年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～	
	2	住んでみたいと感じるまちづくり	
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進	SDGsとの関連性 4 質の高い教育を みんなに 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
	事業名	市民大学講座の充実	
担当課	まちの魅力創造課／文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	大学等との連携により、市民ニーズに応える専門性の高い講座を実施します。		
関連計画等での 位置付け			
今年度の 取組内容	(1)流通経済大学と連携した市民大学講座の開催 ア 開催に向けた協議検討 ・市民ニーズ調査結果や大学側開催可能内容等から今年度講座開催テーマの協議 スポーツ健康科学部の協力のもと健康増進に掛かる、屋外や自宅でも受講可能な講座や、コロナ禍でも開催できる様にオンライン講座や少人数での分散開催など新たな開催方法の検討 ・開催時期の協議 イ 講座の開催 新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた開催 ウ 開催後のアンケート実施による今後の要望調査 (2)私立大学生涯学習支援プログラムによる講演会の開催 ア 講座の選定、開催時期の検討 イ 応募 ウ 大学及び講師との調整 エ 参加者募集 オ 講演会開催		

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～		SDGsとの関連性 4 質の高い教育を みんなに 17 パートナーシップで 目標を達成しよう
	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり		
	3	魅力があり、信頼される学校づくりの推進		
	事業名	教育の日推進事業の充実		
担当課	文化・生涯学習課／指導課			
事業の概要・目的	11月の龍ヶ崎教育月間、11月5日の龍ヶ崎教育の日を中心に龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することで、市民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもを育成します。			
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.1-3-3、2-1-4			
今年度の取組内容	(1)取り組み内容の検討(5月～8月) 教育の日推進事業の取組み内容について、庁内関係課及び学校等と協議を行い決定する。 (2)周知活動の実施(9月～11月) 広報紙、市公式ホームページなどに教育の日推進事業について掲載する。 市内の公共施設や教育施設には、横断幕及びのぼり旗などを設置し、教育の日推進事業の周知活動を行う。 (3)教育の日推進事業の展開(11月) 実行委員会での協議をふまえ、教育の日推進事業を展開する。 (4)取組の紹介 市公式ホームページに取組の様子や結果を掲載する。			

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり	
施 策	1	家庭の教育力の向上	SDGsとの関連性  
事業名		各種セミナーの開催・相談体制の充実	
担当課		文化・生涯学習課	
事業の概要・目的		子どもを持つ親たちの学習や交流の場として、子育てふれあいセミナー事業を実施し、子育てへの不安や悩みを解消し、家庭教育の重要性の認識を図ります。	
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-1	
今年度の取組内容		【子育てふれあいセミナーの開催】 (1) 全体研修会の実施内容の検討 ・「龍ヶ崎市の教育と食育」及び「子育てに関して」をテーマに2回実施する。 (2) 各校におけるセミナー ・感染対策として、同一内容を地域ブロック毎に開催する。保護者同士が交流することを目的とした体験活動を実施する。 (3) 家庭教育支援資料等の情報提供 ・県の家庭教育支援資料「子育てアドバイスブックローパー」モバイル版の案内 ・家庭教育支援に関する内容をテーマとして「子育てふれあいセミナー通信」を定期的に発行しセミナー生へ配付する。 【家庭教育相談の実施】 (1) 家庭教育指導員による家庭教育相談の実施 (2) 主に青少年及びその保護者の家庭教育に関する相談業務を電話または窓口で実施し、必要に応じて、関係機関等を紹介することで、専門機関との連携に努める。	

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり	
施 策	2	幼児教育の充実	SDGsとの関連性 
事業名		子どもの読書活動の推進	
担当課		文化・生涯学習課	
事業の概要・目的		子ども読書活動推進計画に基づき、幼児期における読み聞かせや読書の重要性の周知を図り、子どもが自主的に読書に取り組む環境整備を進めます。	
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-3	
今年度の取組内容		1 関係課が連携した子ども読書活動の推進強化 第3次龍ヶ崎市子ども読書活動推進計画終了後の子どもの読書の推進方法について、龍ヶ崎市子ども読書活動推進委員会の意見を踏まえ、次の点に留意しながら推進方法を検討する。 ・教育プランとの整合性 ・子どもの読書についてのアンケート結果（R3年度に実施） 2 市立図書館の子ども向けイベント等の充実 新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策を行いながら、「こどもの読書週間」や夏休み期間などに、子どもを対象とした参加型イベント等を開催する。 ・おはなしマイスター ・プログラミング講座 ・子ども向け映画会など	

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり	
施 策	4	子どもの交流と活動の促進	SDGsとの関連性 
事業名	子どもの交流・活動拠点の充実		
担当課	文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	たつのこ山管理棟の施設を利用して、サポーターやボランティアの見守りにより、子どもたちの自由な発想を育む空間を提供します。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-1		
今年度の取組内容	たつのこやま管理棟において、NPOのサポーターや地域のボランティアにより遊びの指導や見守りを行い、子どもたちが自由な発想で活動することができる安心・安全な場を提供する。 【実施団体及び時間帯】 (1)NPO法人ティ・ペア(土・日曜日 10:00～16:00) (2)たつの子山囲碁クラブ(月曜日 14:00～16:30) (3)龍ヶ崎市女性会(木曜日 14:00～16:30)		

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり	
施 策	4	子どもの交流と活動の促進	SDGsとの関連性  
事業名	子どもの地域活動への参加促進		
担当課	文化・生涯学習課／指導課		
事業の概要・目的	子どもの地域活動への参加を促し、青少年の健全育成を図ります。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-3		
今年度の取組内容	(1)「地域の子どもは地域ぐるみで育てる」という視点から、学校、地域、その他の関係機関が互いに協力して、青少年の健全な育成を図るため、市内の小学校校門などでの立哨による声かけや、非行防止キャンペーン(あいさつ・声かけ運動)を実施する。また、学校を通じて子どもたちに市内一斉清掃への参加を呼びかけるとともに、参加者にはまちづくりポイント制度のポイント手帳やポイントシールを配付し、子ども達の地域活動等へ参加する意識を高める。【文化・生涯学習課】 (2)「魅力ある取組」、「学力向上」、「連携」を重視した地域社会の教育力を有効活用した教育活動の展開【指導課】 (3)地域行事への参加や地域人材を活用した教育活動や体験活動を通しての地域社会の一員としての自覚や感謝、思いやりの心の育成と地域と一体となった学校づくり【指導課】		

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

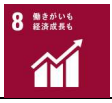
令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり	
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進	SDGsとの関連性 
事業名	人権啓発活動の充実		
担当課	文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	人権尊重について、身近で大切なものと感じ、理解を深めることのできる啓発を行います。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-3-1		
今年度の取組内容	人権啓発に係るパネル展の開催 人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権啓発に関するパネル展示を行う。 5月～7月 展示パネル借用申込 8月～9月 チラシ作成 10月～11月 チラシ配布、市広報紙・HP等へ掲載 12月 展示		

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり	
施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実	SDGsとの関連性 8働きがいも経済成長も 11住み続けられるまちづくりを
事業名	市民遺産の認定		
担当課	文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	指定文化財以外で、市民に親しまれている身近な自然や歴史的・文化的な遺産を「龍ヶ崎市民遺産」として認定し、市民の地域に対する誇りや愛着の醸成を図ります。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-2		
今年度の取組内容	1 認定候補物件の公募(5月～9月) ・市民に向け、広報紙や公式ホームページ等を通して周知する 2 認定候補物件(市推薦)の洗い出し(5月～6月) ・市や小中学校等が所有する物のうち、歴史的・文化的価値があり認定候補になり得ると考えられる物について、洗い出しを行う 3 候補物件についての調査(5月～10月) ・市民から推薦のあった候補物件、または市自ら推薦する候補物件について、市史等の文献や関係者への聞き取りなどにより調査を行う 4 文化財保護審議会への諮問・会議の開催(11月) ・候補物件を新たな市民遺産として認定することについて、審議会に諮問し答申を受ける 5 教育委員会定例会への議案提出(12月)		

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり	
	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実	SDGsとの関連性 
	事業名	歴史的資源などの活用	
担当課	文化・生涯学習課		
事業の概要・目的	指定文化財や市民遺産などの資源を活用し、その他の地域資源と組み合わせた散策・観光コースを提案するなど、魅力的な環境づくりを推進します。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-3		
今年度の取組内容	1 「国指定重要文化財『絹本着色十六羅漢像(複製)』公開展」の開催 ・全16幅の複製を一堂にお披露目する特別公開展を開催する 【開催時期】 令和4年8月予定(約1か月間) 【開催場所】 歴史民俗資料館 企画展示室 2 指定文化財／市民遺産説明板の製作・設置 ・文化財等の散策をする際に役立つよう、新たに認定された市民遺産の説明板や、既存の指定文化財の説明板のうち劣化が激しいものについて、新たに製作して所縁のある場所に設置する(2件程度を予定)		

(2) スポーツ都市推進課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～	
	2	住んでみたいと感じるまちづくり	
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進	SDGsとの関連性  
	事業名	大学等と連携したスポーツイベントの開催	
担当課	まちの魅力創造課／スポーツ都市推進課		
事業の概要・目的		大学等をはじめとした産学官連携のほか、他市町村との広域連携といった多様な連携によるスポーツイベントを開催し、交流人口の増加・地域の活性化を図ります。	
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-4-4	
今年度の取組内容		(1) スポーツによる地方創生官民連携プラットフォーム事業の実施 ・産学官連携に対し柔軟に対応できる自治体職員の育成を目的とした研修会の開催を検討していく。またスポーツによる地方創生官民連携プラットフォーム推進計画に掲載される取組みの具体化に向けて調査研究をする (2) プロ野球イースタンリーグの開催 北海道×茨城県プロジェクトの事業展開の一つとして、北海道日本ハムファイターズのイースタンリーグ主催試合を、令和4年9月18日(日)にTOKIWAスタジアムで開催する。 (3) 産学官連携によるスポーツイベントの開催 流通経済大学や総合型地域スポーツクラブ「NPO法人 クラブ・ドラゴンズ」等の企業や大学と連携し、様々なスポーツイベントを開催します。 ①ジュニアアクアスロン、②リレーマラソン、③オセアニアジュニア柔道交流	

戦 略	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～	
目 標	2	住んでみたいと感じるまちづくり	
施 策	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進	SDGsとの関連性  
事業名	トップアスリートの育成		
担当課	スポーツ都市推進課		
事業の概要・目的	トップアスリートを育成するための環境整備を行います。		
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-2、5-4-2		
今年度の取組内容	優れた素質を有するまたはトップレベルを目指している競技者に対し、高度な指導ができるようスポーツ指導者講習会等を定期的に開催するとともに、市内スポーツ団体と連携しジュニア期にオリンピックなどのトップアスリートとの連携事業の実施を検討していく。また、全国大会や国際大会に出場する選手への支援を行う。 1. 技術講習会 2. スポーツ指導者講習会 3. 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 4. トップアスリートとの連携事業		

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～			
	目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり		
		施 策	3	スポーツ環境の充実	SDGsとの関連性  
			事業名	流通経済大学運動部との連携	
担当課	まちの魅力創造課／スポーツ都市推進課				
事業の概要・目的		流通経済大学運動部応援ツアーの開催や総合運動公園における公式戦開催への協力、運動部活動の情報発信等を行うとともに、大学運動部と各種団体が連携したイベント開催等を推進し、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。			
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-1			
今年度の取組内容		(1)各運動部の公式試合日程等の情報提供 ・総合運動公園イベントスケジュールへの掲載や試合会場等にポスターを掲示するとともに市広報紙や市公式ホームページ等SNSや龍ヶ崎市駅デジタルサイネージなどを活用し継続的な試合情報の提供を行う。身近な場所で全国レベルの大学スポーツが観戦できることを積極的に市民に周知する。 ・大学の各運動部のSNS等と連携した周知方法の検討を行う。 (2)応援バスツアーの開催 ・全国大会やリーグ戦決勝戦等、市民の関心の高い試合の応援バスツアーを開催する。 また世界大会出場など現地へ応援に行けない場合の支援策として、大学と連携し、パブリックビューイングの開催など状況に応じた支援策を検討していく。 (3)市民と大学運動部との新たな連携方法の検討 ・市民が選手を身近に感じる情報発信策の検討を行う。 ・市公式ホームページ内での紹介サイト構築等の検討をする。 (4)市運動施設の優先貸出 ・市内での公式試合数増加に向け、大学運動部と調整を図り、市運動施設の優先貸出を行う。			

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり	
施 策	3	スポーツ環境の充実	SDGsとの関連性 
事業名	スポーツサロン北文間館の運営		
担当課	スポーツ都市推進課		
事業の概要・目的	令和4年度より「スポーツサロン北文間館」を開設し、ニュースポーツやレクリエーションの普及、立地を生かした屋外スポーツの普及に努めます。		
関連計画等での位置付け			
今年度の取組内容	閉校した北文間小学校校舎の一部を「スポーツサロン北文間館」としてリニューアルして令和4年4月1日から供用を開始する。たつのこまちづくりパートナーズと連携して、ニュースポーツなどの普及・促進を図る。 1. 市民への周知 (1)市広報紙への施設紹介の掲載 (2)市公式ホームページで施設概要や教室・講座の予定を掲載 2. 教室・講座の開催 (1)指定管理者による教室・講座の実施 (2)指定管理者によるニュースポーツの普及 (3)貸館事業の実施		

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和4年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～	
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり	
施 策	3	スポーツ環境の充実	SDGsとの関連性  
事業名		マラソン大会の開催	
担当課		スポーツ都市推進課	
事業の概要・目的		地域の特色を活かし、市内外の人々から親しまれ、愛されるような魅力あるマラソン大会を開催します。	
関連計画等での位置付け			
今年度の取組内容		- 令和5年度開催に向けて、マラソン大会実行委員会及び運営委員会開催、大会準備を進めていく。 ※令和4年9月に新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ大会開催の可否をの判断を行う。 - 当大会における運營業務委託を締結し、以下の委託業務について計画的に進めていく。 (1) 制作物関連業務(パンフレット制作、参加案内印刷発送、参加賞等) (2) エントリー関連業務(インターネット(PC・スマホ)エントリーサービス利用料、主催者管理ページ更新費等) (3) 参加者関連業務(参加者データ入力) (4) 大会Web関連業務(当大会専用サイト制作費等) (5) 設営関連業務(会場設営・撤去) (6) 大会当日関連(選手の記録処理関係等) (7) その他(警備関連費用) - 茨城県警との協議 交通警備計画(素案)を作成し、竜ヶ崎警察署と協議を進める。 - 応援要請 運営委託業者と大会従事動員数の設計について協議し、市職員及びボランティア等に応援要請を行う。 - 情報発信(広報・PR活動) 当大会専用サイト等を創設するほか、市公式HP、市公式SNS等を活用し、情報発信に努めていく。	